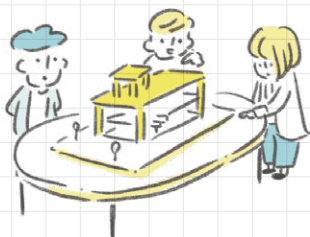
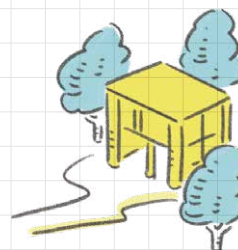


60周年に “あるべき姿”を求めて



— 一次世代を生き抜く建築士事務所の課題と日事連の役割 —

日本建築士事務所協会連合会 創立60周年記念誌



一般社団法人
日本建築士事務所協会連合会
Japan Association of Architectural Firms





建築士事務所憲章

建築士事務所は、建築や環境が文化の形成に占める重要な意味を認識し、社会の健全な進歩と発展に寄与します。

- 誠意をもって設計と監理の業務を遂行し、建築主の期待に応えます。
- 健康で快適な生活環境の創造と、安全安心、持続可能で良質な資産の形成を図ります。
- 自己研鑽を怠らず、職業倫理を高め、法令遵守と公益の立場に立って最善を尽します。
- 設計意図の理解を施工者に求め、公正に工事を監理します。
- 互いに信頼を深め、連帯の精神をもって職務を全うします。

平成20年5月

一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会

60周年に “あるべき姿”を求めて

— 次世代を生き抜く建築士事務所の課題と日事連の役割 —

日本建築士事務所協会連合会 創立60周年記念誌

技術者の資格は「建築士」で、その業務を「業」として行うのが「建築士事務所」だけど...

昭和25年公布の「建築士事務所」は場所を定めて届ける

届出制

だった!

- 建築士事務所の開設には要件なし
- 管理建築士を置けば誰でも開業可能
- 小規模建築物の設計等は無資格でも可能

建築主が不利益を被るリスクが大きかった...

など... たくさんの**問題**があった

このままでは良くない!!

各地の団体が連合

運動することによって横のつながりが強化された

業務独占範囲を明確化せよ!

登録制度を準備せよ!

単位会A 単位会B 単位会C 単位会D 単位会E 単位会F

団結

昭和37年「全国建築士事務所連合会」創立
同年「全国建築士事務所協会連合会」に名称変更

昭和50年「(社)全国建築士事務所協会連合会」設立
昭和55年「(社)日本建築士事務所協会連合会(日事連)」に名称変更

47都道府県協会 日事連

47都道府県の各建築士事務所協会(単位会)が会員となり、集まっているのが日事連

建築士ヒトリークが会員ではなく、建築士事務所協会が糸目系統されているんだね

うーん でも... なんだか 難しい? ... イマイチ 自分とつながらないというか...

あ、つまり、こうやって 団結してできた 日事連がその後 どのような活動をしてきたか、具体的に 教えてほしいって ことです

あ、そうなんです

日事連が関わった主な建築士法の改正 (一部抜粋)

指定法人制度(平成9年)及び日事連・単位会の法定団体化	管理建築士の要件整備と権限強化
設計・工事監理契約の適正化	建築士の受験資格の見直し

建築基準法の一部改正提言や、管理建築士の要件強化などにも関わってきたぞ!

日事連と47単位会の主な活動と取組

- 建築主等からの相談・苦情の解決
- 研修・講習の企画・実施
- 業務適正化ツールの作成
- 災害時の復興支援
- 耐震診断・改修の相談窓口
- 設計等業務の啓発
- 建築士事務所の賠償責任保険の普及
- 建築士事務所指定登録機関

既存住宅状況... JAAP-MST 重要事項説明解説書

耐震診断・改修の相談窓口

設計等業務の啓発

建築士事務所の賠償責任保険の普及

建築士事務所指定登録機関

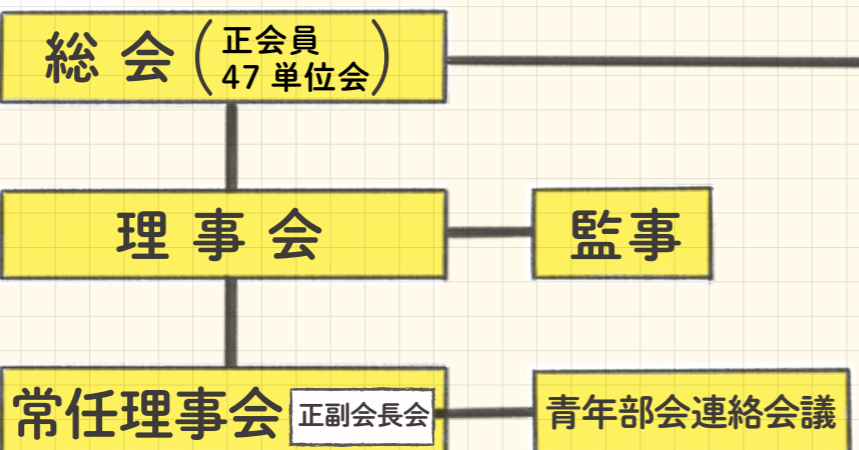
建築士事務所の運営を助けたり、建築主が安心して仕事を依頼できる環境をととのえているよ

日事連組織図

(令和5年3月現在)

事業全体の決算、組織や活動方針について話し合っているぞ

国や行政、関係団体への働きかけについても協議されているよ



建築士事務所協会 全国会長会議

全単位会 (=協会) の会長が集まり、総会の決議事項を話し合い、各単位会やブロック協議会の活動を報告しているぞ

47 単位会 (建築士事務所協会)

- <ブロック協議会>
- 北海道東北ブロック**
 - 北海道 青森 岩手 宮城
 - 秋田 山形 福島
 - 関東甲信越ブロック**
 - 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉
 - 東京 神奈川 新潟 長野 山梨
 - 東海北陸ブロック**
 - 富山 石川 福井 岐阜
 - 静岡 愛知 三重
 - 近畿ブロック**
 - 滋賀 京都 大阪
 - 兵庫 奈良 和歌山
 - 中四国ブロック**
 - 鳥取 島根 岡山 広島
 - 山口 徳島 香川 愛媛 高知
 - 九州・沖縄ブロック**
 - 福岡 佐賀 長崎 熊本
 - 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

- 特別委員会**
- 法制度対応特別委員会
 - 全国大会運営特別委員会
 - 60周年事業特別委員会
 - 記念式典企画分科会
 - 記念誌刊行分科会

この記念誌もここで作られているんだぞ

委員会は各単位会の会員等が委員となって構成されているんだね

常置委員会

- 総務・財務委員会**
 - 会員サービス検討WG
 - 事務所登録電子化対応WG
 - 建賠保険担当
- 教育・情報委員会**
 - 景観・まちづくり専門委員会
 - 開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会テキスト改訂WG
- 業務・技術委員会**
 - 構造技術専門委員会
 - 既存住宅状況調査専門委員会
 - 業務開発専門委員会
 - 業務報酬基準WG
 - BIMと情報環境WG
 - BIM GATE編集委員会
 - 四会契約約款担当
 - JAAF-MST担当
- 広報・渉外委員会**
 - 会誌編集専門委員会
 - 日事連建築賞選考委員会
- 指導運営委員会**

管理石開小多会テキストはここで作っていたんだ...

知らなかった!

契約約款もここが事務局とんでつくられているんだね

連合会となった現在は、組織化されて、建築士事務所の質の向上、社会貢献に向け活動しているよ

会長インタビュー

60周年に “あるべき姿”を求めて

日事連は創立60年を迎え、新たなステージに一步踏み出しました。未来志向でこれから進むべき道を見つけていくために、児玉耕二・日事連会長は、現状をいかにとらえ、次の10年をどのように見据えているのでしょうか。お話をうかがいました。

建築の専門家は 地域の未来を創る実業家

— まず、日事連や単位会をはじめ、この業界について会長が現在お考えになっていることを率直にお聞かせください。

会長 今時代は大きく変わりつつあります。とりわけ、コロナ禍を契機に変化は加速しました。日本社会も建築業界もドラスティックな転換期を迎えていることは間違いありません。ただし、課題が突然浮上したということではなく、これまで先送りしてきた課題の解決が迫られ急速に動き出しています。その意味ではこれからの10年を考えていくうえで今は非常に良いタイミングです。周年事業として単に過去を振り返るのではなく、よりよい未来を実現するために次の10年を見つめ、歩を進めていくことが、この業界においても日本社会においてもとても重要だと思います。イメージションを膨らませながら日事連のこれからの役割を考える良い機会にしていきたいですね。「SOUZOU」というと建築業界ではすぐにクリエイティブの「創造」を発想してしましますが、現時点で重要なのはイメージションの方の「想像」です。未来を考えることが今一番必要ではないでしょうか。

— 創造ではなく想像。日事連の会員は皆、未来を考えなければならない重要な岐路に立っていますが、建築士事務所が次世代を生き抜くには何が必要だとお考えですか。未来に向けてのヒントをお願いします。



会長 多様性が重視される時代にあつて、建築設計の業務ももっと多様な形、アプローチ、方法があつていいのではないのでしょうか。もはや、これまでのような設計・監理業の枠だけではとらえきれません。設計・監理業務がなくなるとは思いませんが、業務全体での比重は減少するでしょう。事業企画やCMもあつていい。近い将来、設計・監理業務が中心軸ではなくなるケースも多くなると考えています。

建築の専門家という職業は未来を創る実業家です。ステレオタイプにこだわるのではなく、それぞれが自分の専門的な技量を活かし、どのようにしたら社会に貢献して、「業」として成り立つのかを考えてほしいですね。もっと、各自の建築の専門知識を活かす方法があつてもいいはずです。では、専門知識を活かして特定の分野に特化すればいいのかというと、そうではないと思います。世の中をしたたかに生き抜いていくにはハイブリッドの方が強い。何か一つの領域だけを得意とするニッチ型の事務所は、流行が去り、時代が移り変わったときに時代から見放されないと限りません。ニッチな業務に入るのもいいですが、それだけでは長続きはしないのではないのでしょうか。多様性を受け入れながら自分を表現し、自分なりの道を見つけていくことが重要です。建築士事務所にはハイブリッドを身につけるしたたかさが必要だと思います。

多様性を備えつつ、しなやかに生きていく建築士事務所であつてほしいし、日事連もそれを支えていかなければと考えています。特定のジャンルに固執せず、固定的に考えず、世の中に存在しているニーズに合わせながら、建築の専門家として培った技量や経験を活かせる領域を見出すことが大切です。これこそが、次の時代の職業や新しい職種をつくるアプローチだと思います。

必ずしもこれまでの建築家像や建築士事務所像にこだわる必要はありません。既存のイメージに引っ張られることなく、

これからの10年を見つめながら自分たちのあり方、建築士事務所のあり方を考えてほしい。得意分野を活かし、新たな領域を開拓していく活力は未来の実業家には不可欠です。複数の得意分野を獲得できたとき、地平は大きく広がっていくと思います。

—— 今のお話にあつた「未来を創る実業家」というフレーズはとても印象的だと思いました。社会から私たちが求められる姿や呼び名はこれから変わってくるのかもしれませんが、ただ、呼び名や姿が変わったとしても、根幹にある職能や職責などは守り続けなければならないと思うのですが、その点についてはいかがでしょうか。

会長 それは厳然としてありますね。我々の仕事は基本的には社会のニーズに応えていくことが基本だと思います。それは昔も今も、そして未来も変わりはないでしょう。しかし、社会のニーズは確実に変わります。例えば、30年前の建築士へのニーズは「この土地にこういった建物を建ててほしい」という内容でした。ここにホテルやオフィスビルを造りたいという意図が明確にあり、建築士はそれに応えて仕事をこなしていましたが、今は違います。この土地を活かしてどのような事業を営んでいけばいいのか、建物だけではなく事業計画から提案してほしいという要望が増えてきました。建築主の要望に応えるという意味では同じですが、応えるその意味や内容が変わってきています。

社会に長く存在する建築物を造ってほしいといった依頼も増えています。将来に対する責任も強く求められるようになり、以前のように単純にはいなくなりました。しかし、技術や経験、建築に関連する専門知識を活かしてそのニーズに応えていくという意味では同じです。それが建築士の基本中の基本ですから。

社会のニーズを先取りし、建築主や社会が求める専門家集団であるべき

—— 次に、日事連やブロック協議会、単位会のあり方についておうかがいしたいと思います。60年という年月によって強固になった部分はありますが、時代のニーズが多様化する中、組織や事業の変化も不可避だと思いますが、会長は日事連のあり方についてどのようにお考えですか。心がけていきたいことがあれば教えてください。

会長 日事連という団体をどう発展させるか。これは非常に難しい問題ですね。いうまでもなく日事連は個々の会員によって成り立っていますから、会員に対するサービスを充実させ、会員が集まる意義を明確に打ち出していかなければなりません。と同時に、会員のための日事連と、社会に存在を期待される日事連の2つを両立させ、バランスを取っていく必要もあるでしょう。建築物は一度建てられると長く存在し、社会的責任を伴います。社会に対して貢献することも不可欠ですが、その一方で機能面も必要です。また、建築を文化的な意味合いでとらえる人も少なくありません。日事連はこれらをバランス良く支えていく必要があります。業界団体だからといって利益擁護に重きを置きすぎると守旧的になってしまいますが、それでは転換していく社会のニーズについていきません。日事連とは、社会のニーズを先取りし、建築主や社会が求める専門家集団であるべきだと考えています。

—— 日事連の組織には47の単位会がありますが、6つのエリア毎にブロック協議会があります。このブロック協議会のあり方についてはいかがでしょうか。ブロック協議会の運営についての考えをお聞かせください。

会長 これまでは47の単位会が集まって日事連を形成していました。単なる寄せ集めではなく、会員を先進的にリードし、社会に提案できる日事連にしていくには、ブロック協議会による意見集約や協議、要望、提案の上に日事連が作られる形がベターだと思います。これまではあまり重視されてきませんでしたが、協議や提案は、<単位会⇄ブロック協議会⇄日事連>という形が望ましい。47の都道府県全部だと集まりにくいですが、ブロックだとまとまりやすいですからね。

—— なるほど。単位会とブロック協議会、日事連の3層構造が有機的につながる形ですね。ここ数年来の全国大会においてもブロックがより連帯して開催する傾向が強くなってきました。日事連の役員は地域的にある程度順番で役員を回していく傾向にあり、ブロック協議会も持ち回りで運営しているブロックが多いように思います。今のような内容を加味して考えた場合、ブロック協議会会長が日事連と単位会の窓口になるような組織作りを目指すという方向性も考えられますか。

会長 組織の運営には規模に応じた実力が必要ですから、いきなりすべてのブロックが同じ形で突き進むのは時期尚早な気がします。単位会の規模は一様ではありません。例えば、



東京会は1,600社余りで構成されていますが、小さい単位会は100社程度。ブロック協議会をうまく運営するには、規模に見合ったマンパワーや地域の拡がりに応じた連携や協力が不可欠です。それぞれのブロックの実情に合わせて、どこかがリーダーシップを取り、相互に助け合いながらマンパワーをならしていく。そうした方法が現実的ではないでしょうか。例えば北海道東北ブロックと九州・沖縄ブロックとではそれぞれ成り立ちも地域性も違います。この2つだけを取り上げても、ブロックが皆同じシステム、同じ箱とはいきません。柔軟な組織の作り方を検討してもいいように思います。

—— 単位会の役割についてはどのようにとらえていらっしゃいますか。

会長 単位会のニーズは時代とともに変わってきています。50年～60年前を振り返ると、業として行っていくために助けあつていきたいというニーズが強くありましたが、今は必要な情報も多様化し、昔とは比べ物にならないほど多様な選択肢があります。そうした中で、単位会のメリットとは何なのか。今の時代、情報だけであれば本やネットでいくらでも見つけられますが、建築設計は氾濫する情報を選択・解釈し、まとめていかなければなりません。そのためには信頼できる仲間からの情報、つまり生きた情報、重みづけのある情報の提供が必須です。つまり単位会のメリットとは仲間とのつながりです。仲間意識は非常に重要です。また、単位会が地域に根ざしている点にも着目したいですね。地域の求めに応じていくことは会員の使命です。建築士は世界中どこでも仕事はできますが、地域を無視して仕事は成り立ちません。自然災害が起きた場合の緊急支援の協力体制はまずは単位会で敷き、ブロックの中で地域応援を主導し、最後のバックアップ体制を敷くのは日事連という形が理想的です。自助、共助、公助を単位会、ブロック協議会、日事連に位置づけて考えるとわかりやすいかもしれません。設計の他団体との連携強化もま





ずは単位会からスタートすべきで、単位会での交流連携の強化が先だと思います。

— 単位会とブロック協議会、そして日事連の目指すべき方向性がよくわかりました。それぞれが役割を果たすことが重要ですね。

会長 はい。さらにいえば、組織に何が求められているかを考えることも必要だと考えています。自分のやりたい方向だけで考えるのではなく、求められていることから考えることでですね。ニーズとは何なのかといえば、私は技術研修ばかりではないと思います。会員は皆、それぞれに技術を持ち、経験もあります。自己流と言う言葉は悪いですが、自分なりの流儀で仕事をしていますから、そこに触れても仕方がない。それよりも、技術を発揮できるように我々がサポートしていくことです。事業承継などの事務所経営も重要なポイントでしょう。直接的な建築技術だけではなく、労務管理なども含めて円滑な事務所経営をサポートしていくことが重要ですね。そこそが事務所協会の組織としては不可欠なのだろうと思います。一つ付け加えるとすれば、日事連を運営して思うのは「こうしてほしい」という要望は多くありますが、主体的に提案し盛り上げていこうという声ももっとあっていいと思います。単位会、ブロック協議会においても同様です。皆で盛り上げて、運営を効果的に進めていきたいですね。

— チームや仲間、ネットワーク作りについてはどのようにお考えですか。東京会は先進的な考え方でネットワーク作りに取り組んでいると聞いています。日事連という組織を活用すれば仕事の面でのネットワーク作りがもっと効果的に行えるのではないのでしょうか。新たな領域も開拓できるように思いますが、この点について会長はどのようにお考えでしょうか。

会長 そうですね。確かにネットワーク作りは重要なテーマです。会社の名簿みたいなものは集めやすいし、ネットワークの構築に活用はできると思いますが、ネットワークにはお互いの信頼関係が不可欠です。信頼関係がなければ成立しません。今本当の意味で必要なのは、信頼度が高く、仲間意識の強い新しいネットワークです。その意味では、会員同士の信頼関係を強めていくことも今後の重要なテーマでしょうね。ネットワークは名簿的リストを作ってそれで終わりではありません。こういった技術が得意な会社があるという情報だけでは不十分。自分の事務所と親和性の高いパートナーを見つけるには信頼関係がベースになければなりません。その上で「ここならチームが組めそうだ」というのが次のステップになるのです。チーム作りについていえば、密度の濃い連携が必須です。仕事は一人ではできません。連携密度の濃いチーム作りを支援していきたいと思っています。それに加えて、社会貢献も日事連の柱にしていきたいですね。社会貢献というとボランティアや無償貢献をイメージしがちですが、社会貢献には無償と有償の両方がある。建築士事務所らしく、日事連らしく、地域貢献や社会貢献の形を作っていく必要があると考えています。

建築士のゴールは夢を実現することにある

— これから建築設計業界を目指す人のために、会長がこの業界に入ったきっかけをお聞かせください。

会長 私の建築設計人生の取っ掛かりは、前の東京五輪でした。その頃私は中学生で、建築設計に特に関心があったわけではなく、周りに業界の人がいたわけでもありませんが、1枚の写真に心惹かれました。丹下健三氏が設計した国立代々木競技場の写真です。まっ平らな地平に雄々しく建つキール状の柱と流線型の屋根。いったい何をどうしたらこのような建築物が可能になるのかとため息が出ました。絵を描くだけなら可能かもしれませんが、丹下先生はそれを現実のものにされている。頭の片隅にその写真がずっと残っていたのでしょう。高校に進学すると次第に建築の世界にはまっていき、大学に入るときは建築設計の世界を目指すことをほぼ決めていました。私と同じようなきっかけで建築に誘われた人は少なくなかったはずですよ。多くの人が完成した建築の格好良さに憧れ、身近に家を造って町を築く夢を描いたのではないのでしょうか。

— 1964年の東京五輪、そして1970年には大阪万博が開催され、あの時代は日本の建築家が世界規模で活躍し、未来を感じる建物を造っていました。その当時の空気感が伝わってきます。では、これまでに失敗した経験はありますか。

会長 もちろんですよ。若気の至りというか、失敗はたくさんあります(笑)。その中でも特に忘れられないのは、ある施主に言われた言葉です。食堂もあり、天井も高く、スペースもそれなりにある大きな施設でしたが、無事完成したところで施主は「柱が気になる」と言うんですね。そこに柱がある理由については説明していましたが、「なぜこんなところに柱があるのか」と痛烈に指摘され、その慧眼に打ちのめされました。特に目立つように造っていたのではないですし、構造的には仕方がなかったのですが、「これがなければもっと良い空間になったのではないか」と言われたときには「失敗だったかもしれない」と思いました。決して欠陥ではなかったのですが、心残りのプロジェクトです。建築は、構造計画や意匠設計、設備などが一つの形としてトータルに調和し、統一されていなければなりません。アセンブリではだめなのです。私が造った施設は機能的には辻褄はあっていたかもしれませんが、意匠的にはどうだったのか。バランスが取れていたかという点で心苦しい。当時、30代後半ぐらいの年齢でしたが、この一件は今でも鮮明に覚えています。若い日の苦い失敗談です。

— 要望と予算、機能と意匠など、いかにバランスを取りながらお客様に喜んでもらえる建物をいかに造るか。そこそが建築士に課せられたミッションなんですね。人間味のあるリアルなエピソードをありがとうございました。最後に、このインタビュー記事を目にしてくれた方やこれから建築設計業界を目指す方へ力強いエールをお願いします。

会長 我々の終着点は物理的なモノを造ることにあるのではなく、夢を実現することにあります。夢を実現し、できれば期待以上のものを提供していくことこそがゴールです。「自己実現」という言葉がありますが、単純に建物ができればそれでいいと考えるのではなく、建築主の夢を実現すると同時に自分の夢も追いかけて実現させていく。この考えを大事にして、仕事をしてもらいたいと思います。それがこの仕事の一番の魅力なのですから。

— 60周年の節目に、日事連だけではなく建築設計のあるべき姿についても強く関心がもてるお話をお聞きできました。ありがとうございました。



児玉 耕二
 日事連会長 東京会会長
 株式会社 久米設計
 1976年 久米設計入社
 2008年 同取締役執行役員設計本部長
 2013年 同取締役副社長
 2020年 同顧問



座談会1

これからの事務所経営

～クライアントや社会の要請に応えるために～

最近の社会の変化は建築士事務所の役割にも多大なる影響をもたらしています。地方と都市の枠を超え、クライアントや社会の要請に応えるために、建築士事務所経営の観点から、建築士事務所の役割の変化や具体的な取り組み、将来のビジョンを、建築士事務所の経営者にお聞きしました。座談会形式で紹介しましょう。



座談会出席者

コーディネーター



富樫 亮

㈱日建設計一級建築士事務所
日事連理事
記念誌刊行分科会委員
東京会副会長
日建設計 設計部門代表・
取締役を経て、2021年同社
フェロー就任



伊藤 麻理

一級建築士事務所 UAO(株)
東京会会員
スタジオ建築計画(日本)、
Atelier Kempe Thill
architects and planners
(オランダ)勤務後、2006
年アトリエインク(現UAO)
設立
2021年「那須塩原市図書館
みるる」日事連建築賞優秀賞
受賞



細海 拓也

細海拓也一級建築士事務所
東京会会員
OMA(オランダ)、BIG(デン
マーク)勤務後、Ensamble
Studio(スペイン)における
文化庁新進芸術家海外研
修員
2013年 細海拓也一級建築
士事務所設立
2020年「新潟の集合住宅III」
日事連建築賞日事連会長賞
受賞



渡辺 隆

渡辺隆建築設計事務所
静岡会会員
竹下一級建築士事務所勤務
後、2008年渡辺隆建築設計
事務所設立
2018年～静岡理工科大学
工学部 建築学科 非常勤講師
2019年「鷺田卓球場 ラリー
ナ」日事連建築賞優秀賞
受賞



松山 将勝

㈱松山建築設計室
福岡会会員
1997年 松山建築設計室
設立
2019年「父母の家」日事連
建築賞日事連会長賞受賞
2022年「みんなの診療所」
日事連建築賞60周年記念賞
受賞 他受賞歴多数
25年間で医療建築を全国各
地に100棟以上



小泉 厚

㈱アステック建築事務所
会誌編集専門委員会 前委
員長・現委員
記念誌刊行分科会委員
神奈川会理事
和(やまと)設計事務所勤務
後、2003年アステック建築
事務所設立
2008年 紹介で神奈川会
横須賀支部入会
現横須賀支部長

※受賞歴は日事連建築賞のみ記載

日事連が創立50周年を迎えてから10年を迎えました。過去の10年間、さらに今後の10年を見据えて、これからの事務所経営はいかにあるべきかをテーマに座談会を開催しました。参加者は、ここ数年の間に日事連の建築賞を受賞されるなど設計に熱心に取り組んでいる方々ですが、地域や年齢、事務所の規模などは様々です。海外にも目を向け、多彩な活動を展開している参加者は、それぞれどのような問題意識を持ち、事務所経営に臨んでいるのでしょうか。



リモートのメリット、デメリット

富樫：最初に皆さんにお尋ねしたいのがコロナ禍の影響です。仕事のやり方や経営はどのように変化しましたか。

伊藤：打ち合わせがリモートになったことで仕事の効率化が図れるようになりました。雑談もなく、打ち合わせがすぐに終わるため、事務所内のコミュニケーションをしっかりと取れるようになったのは良い変化ですね。

細海：私の場合、若い方との打ち合わせはZoomで行っていますが、PCが苦手というクライアントも少なくありません。その場合には向こうに向向しています。確認申請もWebでできるようになりましたし、作業的にはかなり楽になりました。

伊藤：それは大きいですね。ただデメリットもあります。模型を持参した打ち合わせができないので、一気に動画でのプレゼンにシフトしましたが、模型を前に皆で議論をする機会が減りました。淡々と話が進んでしまうんですね。また動画だと細部が見えすぎて、完成後の姿がクライアントに植え付けられてしまうため、ラフなイメージを共有しながら作業を進めることが難しくなりました。後からこんなつもりじゃなかったとひっくり返されることもあります。

渡辺：私は特に仕事のやり方は変わっていません。スタッフとわいわいやりながら仕事を進めているのでリモートにすることは考えられないんですよ。Webだと気持ちが伝わりにくく、なんだか疲れるんですよね。どれぐらいの声で話したら伝わるのか実感しづらいし、カメラを切った向こうでバジャマ姿なのかと想像してしまうとやりきれない(笑)。やはりスタッフの顔を見ながら仕事をするスタイルを続けたいと思っています。

富樫：私が見聞きした中では圧倒的にWeb肯定論が多いので、渡辺さんの意見は衝撃的です(笑)。

松山：私は福岡を拠点に活動しています。コロナ禍でスタッフの半数を在宅ワークにするなど、今後の仕事環境の在り方も意識しながら様々な体制にトライしましたが、リモートの限界を感じたのも事実です。やはり、モノづくりは人と人が触れ合い、素材にも直に触れながら議論を深めていくリアル感が大事。リモートだと業務がどうしても状況報告的になりがちで、同じ時間を共有しながら自由な議論が飛び交っていたこれまでの環境が失われていくような危機感もあり、現在は以前と変わらない体制でやっています。





座談会を終えた参加者：活躍の地域も年代も多種多様

小泉：私が所属している横須賀支部ではZoomを使えるようにと若い人がベテラン勢をフォローすることで上下間のコミュニケーションが活発となりました。私自身もリモートが増えたことで打ち合わせに出る回数が減り、仕事に専念できる時間が確保でき、仕事量は以前より2割程度増えました。模型は今でも作っていますよ。また、地元での仕事が多いため現場にも足を運んでface to faceで仕事をしています。そういう意味では仕事のやり方自体はあまり変わっていません。

富樫：やはりリアルな建築の延長線上にあるのが模型なんですよ。荷重の伝わり方や、雨が降ったらこんな風流れるという物理的な事象を直感的に理解しやすいですから。

松山：模型を通して壁や柱の寸法、天井の高さなどがだいたい読めますよね。画面だけではスケール感が身につかない。ローテクではありますが、スタッフの教育には欠かせないと思います。

枠組みを求められる案件が増えた

富樫：受託状況に何か変化や新しい傾向が見られましたか。

伊藤：私の事務所はデベロッパーからの依頼とコンペの仕事の2つを手掛けていますが、前者に関してはここ2、3年でプログラムの相談から入ることが増えました。この場所はどうか料理したらいいのかという座組をこちらに求めてこられるんですね。建築的な特徴とプログラムがうまく噛み合えば新しい建築になると思います。今15~20ほどの物件を動かしていますが、3割はプログラムからの提案です。

富樫：何をやるのか検討するところから始める仕事はこれまでもありましたが、最近とみに増えてきたように思いますね。

細海：私の場合は、周りの若い友人たちが施工まで手掛けるようになってきました。内装もデザインもすべて提

案をして施工までやっていますよ。私自身はコロナ前に多かった4,000m²、5,000m²の大規模な案件がなくなりました。東京五輪に向けたホテル案件などでした。その代わり、小さな規模の個人の住宅や店舗の仕事が増えましたね。コロナで出た補助金を使って建てたいという依頼です。

渡辺：私は独立した15年前から、ほとんど事務所がある静岡県内だけで仕事をしています。ただ、規模やクライアントは様々で、小さな住宅の内装から入札での中規模公共施設、企業の大規模な工場までなんでもやらせてもらっています。大規模なプロジェクトでは、最近、基本構想から基本設計までを行って、諸々条件を整えてほしいという民間企業からの、設計施工発注支援業務の依頼が増えており、それは新しい傾向かもしれません。いずれにしてもエリアは静岡県内とか、ほとんどが県西部(事務所近辺)で(笑)、それはコロナ禍の今でも変



既存の用途におさまらない建物『那須塩原市図書館 みるる』(令和3年度日事連建築賞 優秀賞)



わらないですね。

富樫：地域の中で仕事を回せるのはある意味、非常に幸福ですね。

渡辺：そうですね。地域の同業者に対してもしぎを削っているという感覚はまったくなくて、場合によっては図面を共有しているくらいです。ただ、施工者も受注者も大半が地元の方なので、絶対に失敗できないというプレッシャーはあります(笑)。

松山：私の事務所は住宅の問い合わせが増えました。福岡は中心市街地から車で30分ほど行けば自然豊かな環境で暮らせる事もあり、リモートワークの普及によって郊外に住みたい市場が増えたのでしょう。今もそうした方からの問い合わせが続いていますが、ただ成約率が悪い(笑)。リモートの気軽さもあってか多くの事務所にアプローチして予算や期間など、条件を満たしてくれる事務所を探している様子が分かります。何故なら、条件が厳しいことを伝えると返事すら無い事も多いですから(笑)。

小泉：私の事務所は住宅の仕事は年に1件ある程度であとは生産施設及び業務系の仕事が多いです。もともと東京の事務所に勤めていたが、19年前に独立して、最初は友人や知り合いの仕事、また、前の事

務所の手伝いをしていました。そのうち地元の企業が工場を建てるときに声がかかり、そこから連鎖的に生産施設の仕事が増え、今ではベースになっています。公共工事は2割程度、残りは民間という割合です。生産施設では半導体関係の案件が多いので、スピード感が求められ、また、昨今資材が高騰しているため、代案を求められるケースが増えてきました。設備を含め総合的なコンサルもやってくれという依頼もあります。

富樫：これまでも何度か資材が高騰したことはありましたが、社会が高騰した単価を受け入れてくれるかどうか大事ですよ。発注者が現在の単価に対して納得すれば我々の仕事は回っていく。今は発注者がやめる、あるいは値下がりするまで待つケースが多いですか。

渡辺：発注者が値上げ要求を受け入れられるかという契約内容にもよりますが、難しい場合が多いと思います。**松山**：価格高騰の折、プロジェクトが大きいとマネジメントとの調整が大変ですよ。

渡辺：発注者と施工者との間に立って、ぶつからないように調整するのが重要だと思います。パフォーマンスで言っている場合もあるので、その

あたりを見極めながら落とし所に導いていくのが大事ですね。

富樫：発注者は施工者側の事情を知らないことも多いですし、その逆もありますよね。契約の当事者ではない私たちが客観的にそれぞれの事情を伝えることで理解が進むように思います。

横のつながりを強化

富樫：3つ目のテーマはネットワーク作りについてです。すでにこれまでのお話の中でも触れられていましたが、改めて皆さんのネットワーク作りの方法についてお聞かせください。

伊藤：コンペで勝つと、スタッフを常駐で置かなければなりません。うちぐらの規模の事務所だとそれはつらいので、最近は地元の建築士事務所とJVを組んでいます。といってもネットワークがないので、ネットで調べてどんどん電話をかける。そうすることで常駐せずに済みますし、かなり大きなコンペの経験も積めてノウハウも得られます。時間のロスもありません。海外のコンペに出るときには大きな建築士事務所と組んで、なるべくいろいろな人とJVを組んでいます。いいとこ取りですね(笑)。

細海：私もコンペに出っていますが、まだ経験が足りていないので、やはりJVをお願いしてチームを組んで仕事をするようにしています。ただ、コロナ禍で出会いの機会が減ってしまったため、友人や知人とのつながりを活かして、横にネットワークを広げました。この座談会のように先輩方とお会いする機会が減ったのは残念ですね。

渡辺：私はふだんから他の事務所と信頼関係を築いてきました。「あそこは今鉄骨でこんな風に作っている」といった具合に情報を共有し、意識的にネットワークを作ったんです。個人事務所は大手に比べるとトライアンドエラーの機会が少ないですね。それをカバーするにはやはり横同士のつながりの強化が大切だと思います。

松山：私の事務所は民間の仕事が100%なので、福岡でも小規模公共施設のプロポーザルはありますが、参加資格にも届かない。将来的には公共建築を担う人材がいなくなるんじゃないかという危機感がありますね。後継者のことを考えると地方を支えていくべき建築士事務所がトライできない状況は変えていった方がいい。若手が育たない仕組みになっているのが残念です。

渡辺：若手が経験を積めるような案件を出してもらおうといいですね。あとは、先輩事務所が積算の仕方や標準仕様書の解説など公共建設の実務的な講座を設けるとか。入札の参加資格を具体的に把握していないとハードルが高いですから。信頼してもらえるようにこちらから役所に働きかけるのも効果があると思います。

小泉：大きなネットワークではありませんが、地元三浦半島の設計協同組合に加入して活動しています。信用金庫や財団法人などは地元の組合に発注しやすいようです。また、事務所協会の支部長としては、会員が少しでも経営の安定や知識を得るためにも、仕事に繋がる機会を与えていけたらと思っています。特に補助金が絡む木造耐震診断の制度改正や建物定期調査の発注方式等、会員だからこそ得られるチャンスを日事連・事務所協会を通して働きかけるのもいいかもしれません。

富樫：単位会の中には会員情報をデータベース化して情報共有を図る動きも出はじめています。人材情報や技術交流などのプラットフォームになることも期待されています。

個人的事務所だからできること

富樫：最後に皆さんがこれからやってみたいことをお伺いしたいと思います。企業秘密に関わることは結構ですから(笑)、それ以外はご自由にお話ください。

伊藤：数年前に「人が集まり元気になる施設を作れ」というオーダーで図書館の設計をしました。その時思ったのが、これまでの美術館や図書館という枠組みはもう古いのではないかということ。既存の用途におさまらないものを人々は求めていると思うんです。そうした建築を座組から提案していきたいですね。

細海：機能とは関係なく、彫刻的で圧倒的な建築物。人が思わずスマホを扱うのを忘れてしまうような空間を目指したいと思っています。海外には思わず「何だ、これ」と言いたくなるような有無を言わさない建築物がありますよね。それを学びたくて私は海外に行きました。向こうでは感覚的に作っている物が多いように感じましたね。また、海外では一般の人が気軽に建築士事務所に相談しているんですよ。私も、何かあったら気楽に足を



出生地のネットワークを活かして依頼された『新潟の集合住宅III』(令和2年度日事連建築賞 日事連会長賞)

運んでもらえるような事務所にしていきたいと思っています。

渡辺：私は特に目標はないのですが、自分が気持ちよく活動できる場を作ることかな。キャンプ用品があってラジコンがあって、共感できる仲間がいて。そんな空間を成立させていきたいと考えています。その延長線上で地域全体にも良い建築を増やしなが、より暮らしやすい場にしていくことができた。妄想したりしています(笑)。

富樫：自然体ですね。自分が気持ちよく仕事ができる空間は普遍性があると思います。

松山：私は事務所を設立して25年になりますが、地元の建築士事務所に就職する学生が年々減少している実情を問題視しています。これは長年指摘されている低賃金と過酷な労働環境が未だに改善されていない事に他ならず、この流れを変えなければ地方の建築士事務所の存続は厳



お互いに顔を見ながら仕事する：渡辺隆建築設計事務所



<これからやりたいこと>

しいと危惧しています。福岡でも「最近の若者はアトリエ系の事務所に来てくれない」と落胆の言葉をよく耳にします。だからといって受け皿の改善はしようしない。設計を志す学生に希望が持てる環境を示していかなければ地方の建築士事務所の活力は低下の一途を辿るばかりです。私の事務所では前々からその課題に取り組んでいて、賃金においては大手建築士事務所と遜色ない状況まで来ていますが労働環境の改善はまだ道半ばです。それらの目標を達成したら事務所を継承し、60歳になったらもう一度独立して自分だけの世界で余生を楽しむことが夢です(笑)。

小泉：私は空き家対策を進めたいと思っています。7年ぐらい前から横須賀の谷戸地域で建築仲間と建物の再生や新しいコミュニティづくりに取り組んでいるのですが、この地域に大学生やIT関係の人が興味を持ち

始めて、空き家に住むようになりました。古いコミュニティが復活し、新しいコミュニティも生まれています。今後は面的に開発された地域での空き家についても考えて行きたいと思っています。また、マンションもこの先、厳しい状況になりますから、その対策を真剣に考えたいですね。

富樫：ありがとうございます。皆さん、建築士事務所ならではの夢を語っていただきました。

伊藤：個人事務所の良いところはしがらみもなく自由が手に入るところ。失敗するとすべて自己責任ですが、やりたいことがやれますよね。

松山：それと同時に生き甲斐も感じますよね。

富樫：今日は皆さんから頼もしい言葉をお聞きできました。ぜひ未来を見つめて経営していきましょう。私たちが客観的にそれぞれの事情を伝えることで理解が進むように思います。

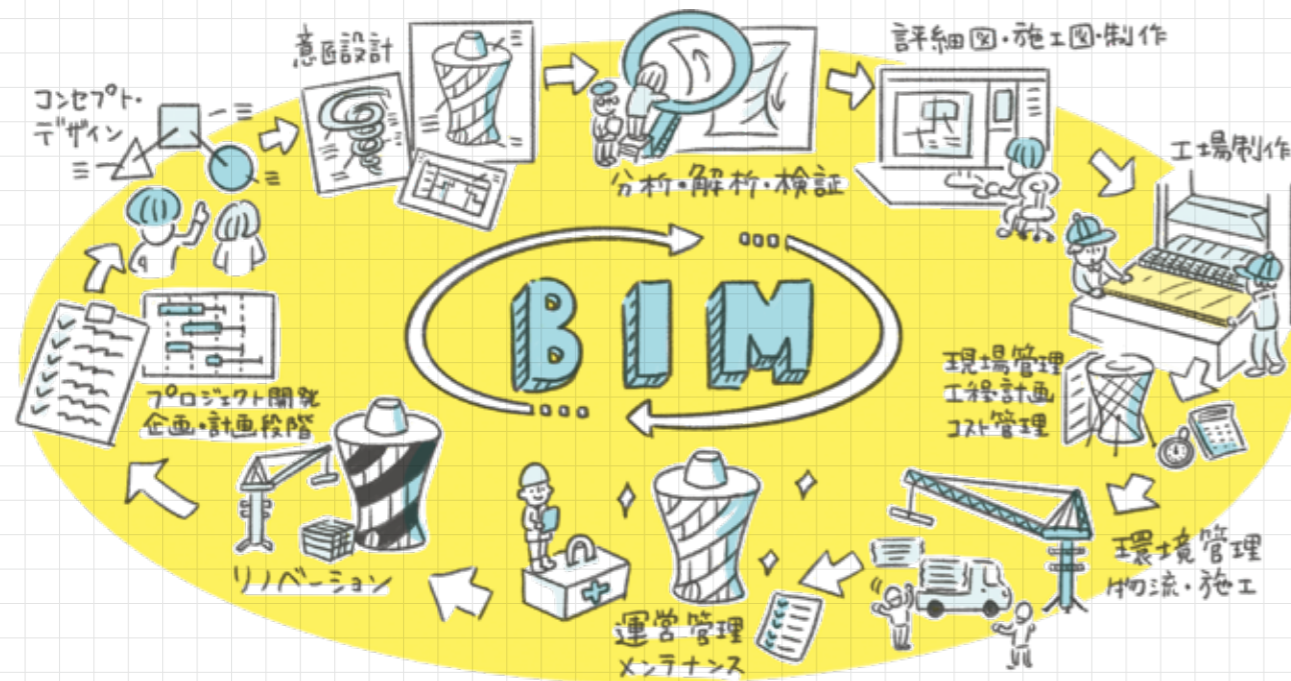


座談会2

BIMの可能性

～建築設計という仕事の将来～

「これからはBIMの時代だ」。そう言われはじめて既に10年以上が経過しました。最近では規模の大小に関わらず、BIMを有効に活用している建築士事務所も増えています。しかしながら、業界全体ではまだ2次元CADでの作図が大半を占めています。BIMを導入しているものの、プレゼンテーションツールの域を脱することができず、実施設計まで完全にBIM化できていない事務所も少なくありません。日事連では2022年にポータルサイト『BIM GATE』を設置し、BIMの初心者からBIMを活用した業務を展開したい設計技術者までの幅広い方々を対象としたコンテンツを開発してBIMの普及に努めていますが、この座談会では、大手組織事務所、地方の中規模組織事務所、BIMを積極的に活用する個人事務所など、さまざまな立場から、BIMについての情報交換を基軸として建築士事務所のこれからについて自由に語っていただきました。



座談会出席者

コーディネーター	司会等				
					
松澤 徹 (株)松澤建築設計事務所 記念誌刊行分科会委員 福岡会副会長 2014年 松澤建築設計事務所 代表取締役就任 (BIMについて) 使い始めた年：2018年 設計で使う割合：60%	東山 圭 (株)東山設計 記念誌刊行分科会委員 宮城会理事 2000年 東山設計 設立 (BIMについて) 使い始めた年：2014年 設計で使う割合：基本設計 90%、実施設計25%	佐々木 宏幸 AIS総合設計(株) 日事連理事、第11代会長 栃木会会長 1996年 荒井設計(現AIS総合設計) 代表取締役就任 (BIMについて) 使い始めた年：2014年 設計で使う割合：基本設計 90%、実施設計25%	吉田 哲 (株)日建設計一級建築士事務所 BIMと情報環境WG委員 東京会会員 2015年 日建設計デジタルデザイングループBIMマネジメント室 室長就任 (BIMについて) 使い始めた年：2015年 設計で使う割合：60%	田原 泰浩 (株)田原泰浩建築設計事務所 広島会会員 2008年 田原泰浩建築設計事務所 設立(2020年 株式会社移行) 2017年～ 広島工業大学環境学部建築デザイン学科(BIM実習) (BIMについて) 使い始めた年：2009年 設計で使う割合：100%	上野 裕平 (株)E-SYSTEM BIMと情報環境WG委員 福岡会副会長 2018年 E-SYSTEM 建築設計室 室長就任 (BIMについて) 使い始めた年：2010年 設計で使う割合：80%

BIMとは、Building Information Modelingの略称です。コンピュータ上に作成した3次元の形状情報に加えて、室等の名称・面積、材料・部材の仕様・性能、仕上げ等、建築物の属性情報を併せ持つ建物情報モデルを構築するシステムのこと。わかりやすくいえば、企画～設計～施工～維持管理に至るまでの情報を一元化して活用し、よりよい建物づくりに活用していく仕組みを言います。BIMは建築のあり方を大きく変える技術とされていますが、まだ広く普及はしていません。それはなぜなのか。建築士事務所はBIMとどう接するべきなのでしょう。



BIMを入れない理由はない

松澤 まずは自己紹介も兼ねてBIMとの関わりについてお聞かせください。

東山 私は3年前にBIMを導入しました。ただ、基本的には使っていないんですよ。ですからBIMの可能性について、この場でぜひ皆さんにお聞きしたいと思っています。

吉田 私は30年前に初めて触りました。3次元ソフトに比べて制約が多く、使いづらいと思いましたが、2015年に改めてBIMを導入したときには前と比べるとずっと良くなっていることを実感しました。弊社についていえば、2010年に私が入ってからBIMを使い始めました。2019年からは2種類のソフトを利用しています。BIMといってもそれぞれメリット・デメリットがあるので、導入のときには自分の会社に何が合うのかを確認することが大事ですね。

田原 私はBIMを導入して10数年になりますが、建築士事務所を運営するカタワラ、「広島をBIMの街に！」をキャッチフレーズに掲げて、他の2人の先生方とともに広島工業大学で2ヶ月に1度、「ヒロシマBIMゼミ」を開催し、学生たちにBIMを教えています。その経験からも、BIMは使いこなせばメリットが多いことは間違いありません。情報をデータベース化できることが一番のメリットでしょう。ただ、最初の取っ掛かりはパースができること。パースが図面に連動するのは非常に面白いですね。その点のアピールが普及に効果的だと思います。

上野 BIMを使い始めて10年ほど経ちました。福岡県は比較的、BIMを推進している地域だと思います。2020年には九州の8団体で「BIM推進協議会」を立ち上げ、その事務局も務めました。日事連のBIMと情報環境ワーキンググループ委員として

もすでに3期目に入っています。

佐々木 私は栃木会の会長を務めています。2014年には建築を学ぶ学生を対象に、BIM技能の向上を目指して「マロニエBIMコンペティション」をスタートしました。その後、2021年より規模を拡大して日事連が主催となり、各単位会が持ち回りで開催を担当していくこととなり、全国にフィールドが広がっています。BIMを使うメリットとしては合意形成が早くなったことが挙げられますね。施主とのコミュニケーションはずいぶん取りやすくなりました。通常、設計前に概算工事費を5回程度出していますが、これも簡単に進むようになりましたね。コスト管理の効果は高いと思います。

松澤 設計の手戻りが少なくなったということですね。
上野 私はBIMによって業務が省力化できました。設計者の考える空間をお客様に図面ではない方法でお



「BIM GATE」画面

BIMの初心者からBIMを活用した業務を展開したい設計技術者まで、幅広い方々を対象としたコンテンツをご用意しております。掲載記事は随時更新しておりますので、BIMの導入やBIMの活用にご活用ください。



<https://bimgate.jp>



マロニエBIM設計コンペティション2022 in みやぎ 最優秀賞(国土交通大臣賞)『ふいに「みる」』「BIM GATE」でその他の受賞作品も見られる

見せできる。展開図ではお客様に伝わらないですからね。ビジュアルで伝わるとお客様の反応はいいです。次のステップに進みやすく、設計期間が短縮されます。BIMを導入してよくなかったという点は特に見当たりません。大手組織事務所より人数が少ない建築士事務所の方がメリットを享受できるのではないのでしょうか。1人でやれることが広がって、生産性が上がると思いますよ。

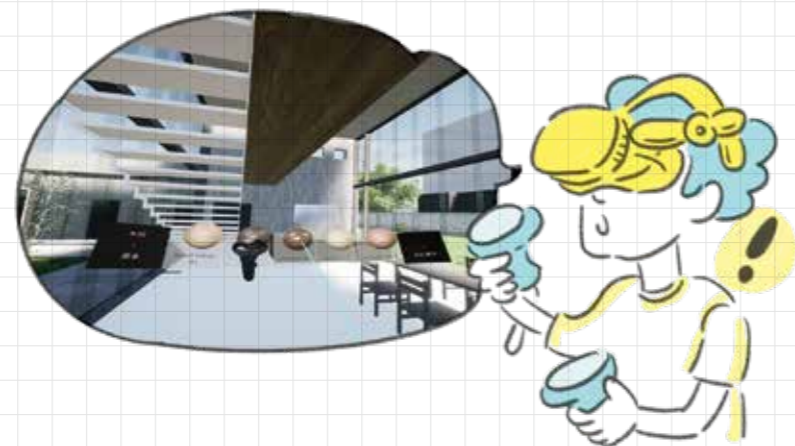
吉田 BIMは要件定義が決まれば、確かにその後の図面作成は効率化・省力化できますが、費用をどうやって回収するのが課題です。建築士事務所はその点について目処が立っていません。また、見やすさはBIMの一番のメリットですが、それだけお客様から何度も修正を入れられてしまいます。高品質のものができて

計料などの考え方が伴っていないと思うんです。設計のレベルが上がった分だけ請求できる仕組みがないと業務だけが増えていく。建築士事務所ほとんどが、作業時間や図面作成の時間が減ったとしても、その分、締切までさらに設計を考えるので、トータルの設計業務時間は変わりません。

BIMのうまみをコストメリットとして十分に享受するには、「締切ゴール」型から欧米のような「成果ゴール」型に変革していく必要があるでしょう。

松澤 なるほど。BIMによる思考の変化はいかがでしょう。何か違いはありますか。

田原 BIMの登場で、設計者の頭の



VR空間で様々な素材のテクスチャをリアルタイムに確認できる。また図面や画面越しの3Dでは掴みにくいリアルなボリュームを感じることができるのがVRの強み。

中の構造が変わったと思います。3Dをそのまま頭の中で作って、空間をそのまま見る感覚ですね。それは二次元CADとの大きな違いです。例えば、図面では気づかなかったキッチンの出っ張りなどもBIMと連動したVRなどでは実空間で認識するかのようになりやすくなりました。メリットばかりです。

松澤 皆さんの話がつながりましたね。打ち合わせ時間が短縮できて、合意形成が早い。BIM導入しない理由が見当たりませんね。

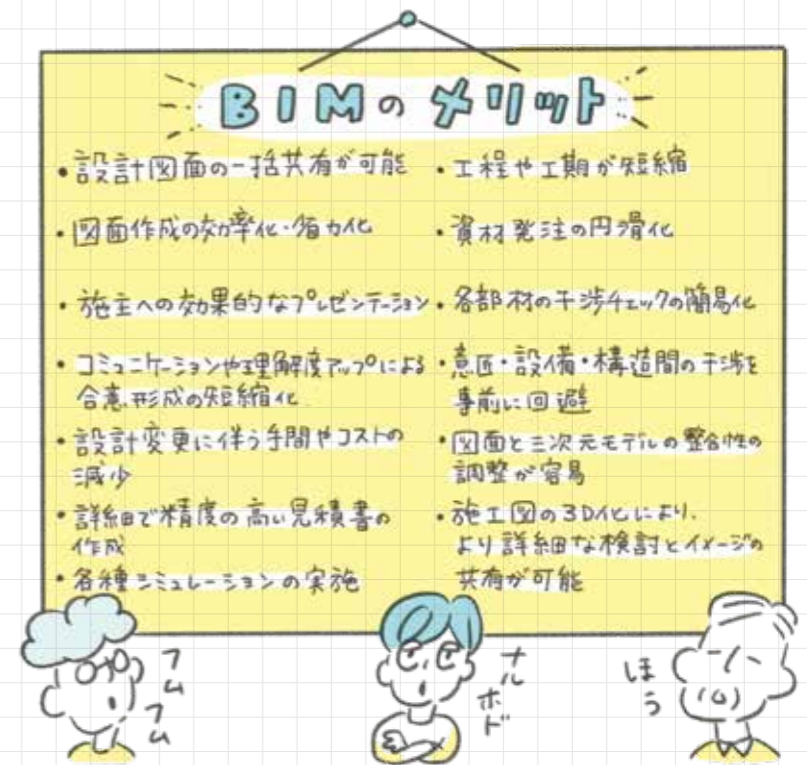
田原 まずは使ってみないと想像できないと思います。インストールして1度試してほしいですね。

BIMを使うルールを決める

松澤 BIMの導入時に苦労されたことはありますか。

佐々木 私がBIMを導入したのは2012年なんですけど、使わないと忘れちゃいますね。講習会に出ても1週間後には何も覚えていない(笑)。使い続けることが大事なので、導入にはある程度覚悟がいます。弊社のきっかけは2014年のBIMのコンペでした。主催者でしたから、自分の会社から誰か出さないといけないし、知識も得ておく必要があったので、社内で参加を強制したんです。その年から新入社員にまずBIMを触らせるようにしました。使わざるを得ない状況でスタートさせないと難しいと思います。

田原 私がBIMを導入した当時は本が1冊しかなくて、毎日大変でした。1日に数回サポートに電話をしていましたよ(笑)。でも建築のことはサポートにはわからない。3、4年塩漬け状態で有効には使えていませんでした。BIMは概念やオペレーションを理解するのに時間がかかります。ですので、



一旦手書きや2次元CAD時代の図面表現をあきらめるのも一つだと思います。情報さえ伝えられればいいと割り切る方法です。

吉田 ルールをきちんと決めるのがBIMを使う条件ではないでしょうか。図面表現についても社内に標準を作る必要があります。しかし組織が大きくなるといういろいろな人がいます。弊社も東京と大阪で図面の書き方が違うんですが、そういうところを乗り切って条件を決めて進めば、あとはバラ色の世界が待っている(笑)。ただそのハードルは高いです。日本の発注者は最初から内容をしっかりと決めているわけじゃないですね。話していくうちに決まっていく。そこに追従するのはBIMだと難しいかもしれません。ある程度BIMでやって、あとは従来の方法でやると割り切ることも必要でしょう。とはいえ、BIMはネットワークでデータ共有できます。皆でデータをつつきあえる環境のメリットは大きいです。

上野 BIMを使う到達点が各事務

所によって違いますよね。単純に意匠図を3次元CADに置き換えたいという事務所もあります。でも講習会で最終の壮大なゴールの話をしてると頂上が高すぎて、皆、目が「ハテナ?」になってしまう(笑)。それでは「難しすぎるのでうちはいいや」となりかねない。BIMの便利なところをクローズアップした方がいいですね。それから自己流はやめた方がいいです。BIMに関しては弊社にはルールがあります。まずはベンダーなどが主催する講習を受けて基本を学ぶこと。その方が後々苦労しません。自己流だとある程度まで進めますが、そこから先はストップしてしまい、パースだけ作って終わりというケースが多いようです。

松澤 自己流をやめるにしても、講習会の費用はちょっと高すぎますよね。事務所協会が会員向けに安価で実施してもらえるといいかもしれません。BIMのソフトウェア自体はいいかがですか。

上野 どれも自動で出てくるのですごいと思いますが、数値が正しいこと



BIMの可能性について、まだまだ話が尽きないようです

が大前提じゃないですか。大本が間違っているとアウトです。機械は入力すると、それに対する答えしか出してくれませんから。

松澤 「それで大丈夫ですか?」とは言ってくれない(笑)。

上野 「大丈夫?」という人を育てていく必要がありますね。

松澤 最初は手書きと模型でスケール感覚と造形のセンスを磨くべきという考え方もあるようです。

吉田 大学の教育はそうなのですが、弊社は最初からBIMです。ただ上野さんのお話のように、ツールなので間違えて入力すると間違っものになってしまう。その判断は新人にはできません。だから必ずプロに聞くようにと言っています。

上野 建築経験が豊富にあれば図面を見て違和感を持ちます。出たものを評価する人が必要ですね。

松澤 納品や確認申請をBIMデータで行えるようになるのはいつぐらいになると思われますか。

田原 まだまだ先でしょう。数年から

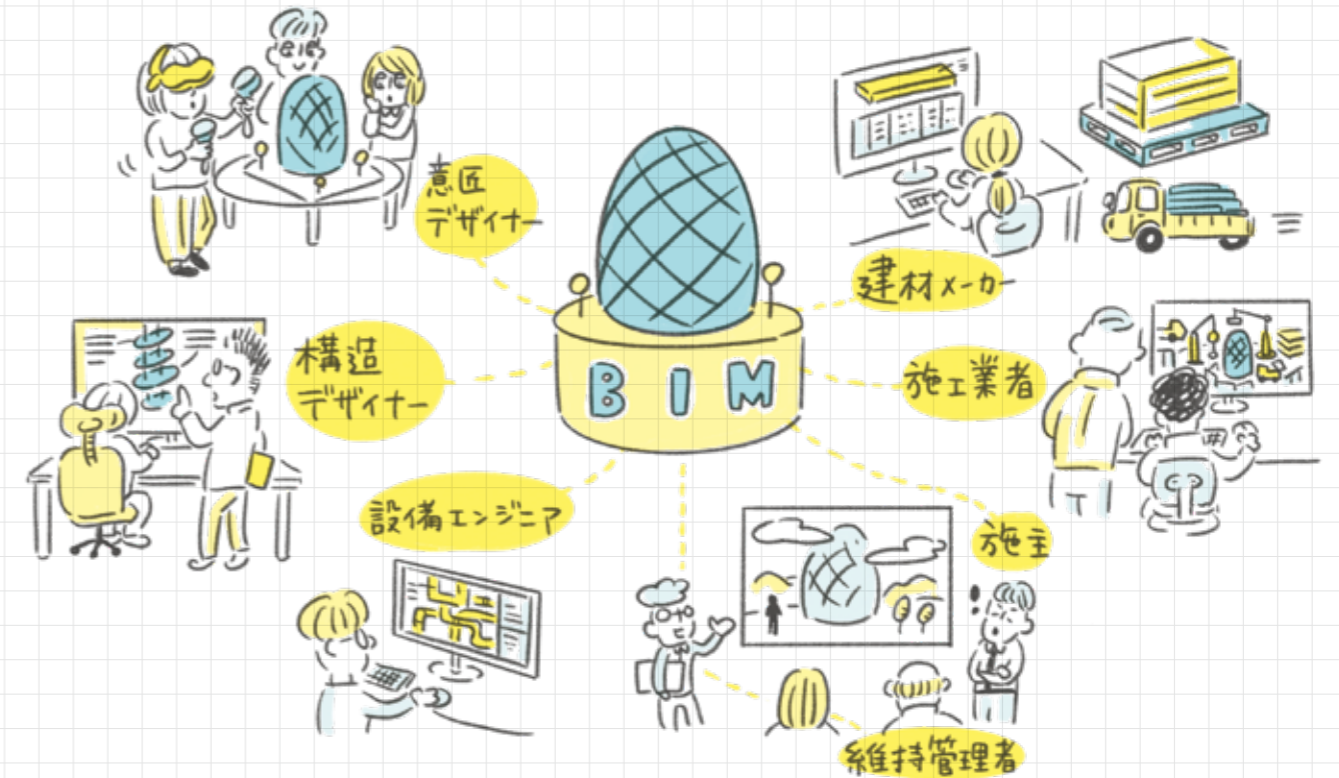
10年以上先になると予想しています。確認申請が先行すると思いますが、消防のほか、各種協議が必要な省庁が積極的にBIM化するとは考えにくいと思います。

佐々木 社内では民間の小物件の申請であれば、3、4年の間に実現できるのではないかと考えているのですが、実際に確認申請をする場合、構造設計や設備設計側の導入が課題でしょう。そこにはBIMがほとんど普及していませんから。その部分をどうするかが課題だと思います。

吉田 本審査をBIMでやるのがいかがうかはその後の法整備やBIMの普及具合によるのではないのでしょうか。確認申請は現状でも建物すべてを審査するわけではなく、法適合確認に必要な設計図書のみを審査します。そこに現れていない部分は設計者が責任をもって品質を確保しますが、BIMモデルで全数をチェックすることはないし、BIM入力申請用の2次元加筆も多いですから、BIMモデルですべてを表すには施工レベルのモ

デルを作らなければなりません。そのすべてにおいて責任を持つことはデジタル上での施工責任を負うことになります。その方向に議論を進めるのは時期尚早でしょう。一方で、基本設計レベルの意匠構造設備の確認申請情報が付与されたBIMモデルを納品することは、都市レベルの安心・安全な建物データベースとして国交省が開発したプラトーなどと連携すれば、ある程度モデルの粒度が揃った日本全国のデジタルツイン(仮想空間上に同じ環境をあたかも再現する技術)につながると考えています。

上野 正直、BIMで確認申請ができるようになるというのは肌感覚として考えにくいです。電子申請も微妙なのに、それをBIMで行うまでは時間がかかります。ただ、BIMの活用はできると思います。複雑なラインの建物などは図面で説明するより3Dモデルを持って行って見せた方がわかりやすい。補助的なツールとしてBIMを使っていくケースは増えるはずですよ。



教育普及活動は必須

松澤 BIMに関して日事連に何か要望はありますか。

佐々木 競争の原理が働かないからなのか、BIMはライセンス料が高すぎますよね。国交省に対して、BIM導入に対する補助の強化をお願いしたいと思います。

上野 価格が10万円台になったら爆発的に普及すると思います。国にはどんどん補助金を出してほしいですね。

田原 大学では1年間、教育機関限定ライセンスを使えます。ただし、業務には使えないのです。

吉田 日事連には、発注者に説明するハンドブックや、何をいつまでに決めればいいのかという解説書を用意してほしいですね。雛形というか、誰でも使えるものがあるといいと思います。BIM特約があればさらにいい。後は教育普及活動ですね。地域のネットワークをうまく活用してほしいと思います。小規模事務所ではBIMについ

て聞ける人がいませんから。

松澤 1から全部作っていくとなると時間もかかりますよね。二次元時代には共通の特記仕様書をシェアしたり、標準詳細図を作ったりしていました。BIMでも会員がフリーで使えるファミリーを共有するなど、「とっつきやすさ」を作ってあげるのが重要かもしれません。

上野 レベルに応じた講習会もお願いしたいと思います。導入を検討している人には、スケールの大きな話よりも目先の使い方を知ってもらう方が効果的です。ターゲットを絞った草の根運動を展開したほうがいいと思うんです。そうすれば、3次元CADの延長線上で使ってみようかなと言う人が増えてくるのではないのでしょうか。講習会に来られても、BIMに投資をする価値が果たしてあるのかないのかと、皆さん葛藤されています。そこは事務所協会が業界団体として補助金等、自治体レベルで予算を付けてもらって、普及活動を展開していくのがいいと思います。

東山 皆さんのお話を聞いて、BIMでできることが100あるとしたら、「メンテナンスも含めて建築士事務所はこういうところまで使うといいよ」という内容が明確になればとっつきやすくなると感じました。いろいろできてポテンシャルがあるからこそ、どこから入れればいいの、うまく仕分けしてもらえると普及しやすくなると感じました。

佐々木 地方自治体に対して日事連で何らかの取り組みが必要でしょうね。ワーキングでぜひ取り組んでほしいです。

田原 BIMは1社だけが運用してもあまりメリットがありません。意匠、構造、施工、メーカー、そして施主がその有用性を理解してこそ大きなメリットが生まれます。日事連にはその意義を広めてほしいと思います。

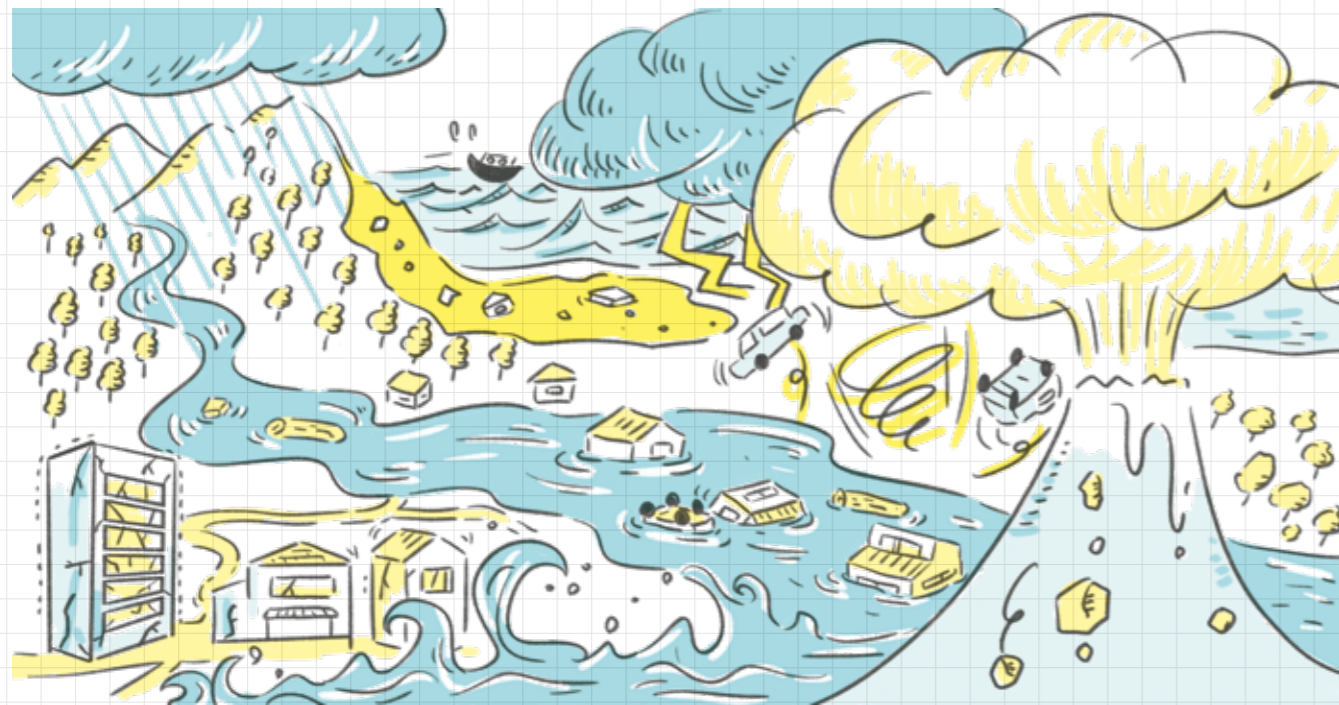
松澤 今日はBIMについて忌憚のない意見をお聞きできました。今回のご意見をBIM普及に役立てていきたいです。ありがとうございます。

座談会3

安全・安心な社会の構築を目指す

～ 自然災害を経験して～

台風、大雨、地震、火山噴火。日本は世界でも自然災害が多い国です。災害を免れる地域はどこにも存在しないとんでも過言ではありません。地域の生活基盤を揺るがす災害時には各地の事務所協会は専門能力を活かして地域に寄与し、危機の克服に尽力しています。その一方で、災害は事務所協会の活動の原点を問い直し、地域の未来を考える貴重な契機であるといえるでしょう。私たち事務所協会は、今後必ず起こりうるであろう災害にどのように向き合えばよいのでしょうか。当座談会では、災害当時の生々しい経験を紹介いただきながら、災害に臨み、災害を乗り越え、建築の専門家の役割と社会貢献策を探りました。



座談会出席者

コーディネーター



佐野 吉彦

(株)安井建築設計事務所
日事連理事、第10代会長
元災害対策特別委員長
大阪会名誉会長
1997年 安井建築設計事務所 代表取締役社長就任



高橋 清秋

(株)高橋建築設計事務所
日事連監事、宮城会会長
1985年 高橋清秋建築設計事務所(現高橋建築設計事務所) 設立



須田 正美

NPO法人 ツーバイフォーデザイン 一級建築士事務所
日事連理事、千葉会会長
2005年 ツーバイフォーデザイン一級建築士事務所 設立



中村 陽二

(株)リスプ環境・都市建築研究所 一級建築士事務所
岡山会理事
1992年 リスプ環境・都市建築研究所 設立



南 孝雄

(株)産紘設計
熊本会会長
1981年 産紘設計 設立



丸川 眞太郎

(株)丸川建築設計事務所
前災害対策特別委員長
記念誌刊行分科会委員
岡山会会長
1998年 丸川建築設計事務所 代表取締役就任



安全・安心な社会の構築を改めて決意する参加者の皆さん

発災時に まず何をすべきか？

佐野 まずは自己紹介を兼ねて、皆さんが体験された災害を振り返っていただき、建築士事務所としての活動内容や反省点についてお話を聞きたいです。

須田 私の事務所のある千葉県では、東日本大震災のときには近くの旭市は津波に見舞われ、千葉市・浦安市では液状化がひどかったですね。その後は地盤改良も含めて地震対策に取り組んできました。熊本地震の際に千葉県から応援に行った人の情報によれば、携帯で通話ができない中でもLINEだけは使えたという情報があったので、千葉会全体で、同社の企業向けのクラウド型ビジネスチャットツールを使って会長以下支部長までネットワークを構築しました。ただし、2019年に台風15号が千葉市中央区を直撃したときには1日半も停電し、サーバーがダウンして事務処理ができない状況が続いたのです。そこでクラウドサーバに切り替えました。これでデータの保管はできるようになり

ましたが、同じ年にまた台風21号が直撃し、今度は茂原市・佐倉市が洪水の被害に遭いました。排水できずに内水が溜まり、水没が非常にひどかったため、現在は地震だけではなく洪水も含めた事務所協会の相談会での対応策を考えています。

中村 岡山県は2018年に西日本を中心とした大規模水害に見舞われ、河川の氾濫や堤防の決壊、土砂崩れなどが相次いで発生しました。岡山は災害がないところと言われていたから、油断があったというか、思いがけない事態に専門家も含めて誰もが動揺しましたね。私たちが現地に入れたのは1週間～10日後。水が引

いていない状況で、建築関連5団体で被災者の窓口を作り半年ほど活動しました。主な支援内容は建築相談会です。この相談内容や知見を踏まえて、発災時にまず何をすべきかをまとめた災害復旧マニュアルを岡山県と事務所協会の協働で作成しました。このマニュアルには水害や地震が起きた際に初動から復旧までの間に行うべき対応策が取り上げられています。

丸川 阪神・淡路大震災のときにも、岡山会では何人もが応急危険度判定のために現地に入りました。それ以来、岡山県は判定士の育成に力を入れています。建築士会を窓口としたネットワークができていますので、災害が



「被災住宅無料相談会」(千葉会・富津市)



くまもと型復興住宅 モデル住宅1号棟外観

あれば一斉に電話連絡が入る。それがベースにあるから迅速に対応できたと思います。

佐野 阪神・淡路大震災のときの知見が今回の対応に生きているんですね。経験を積み重ねることで、今後役に立っていくのだと思います。

南 熊本県では2016年4月14日に前震があり、その28時間後にマグニチュード7.3の本震が発生しました。対策不足だったので大変でしたが、東日本大震災時の対応について被災3県から教えてもらったのでそれが一番役に立ちましたね。応急危険度判定や電話での建築相談、被災調査や復旧設計のほか、地元産木材を使った仮設「くまもと型復興住宅」の設計・監理も手掛けました。これは今も続いています。

高橋 宮城県では1978年に宮城県沖地震が起き、1981年に耐震基準の見直しが行われました。その後も2003年の海洋型三陸南地震や直下型北部連続地震、2005年の宮城県沖地震、2008年の直下型岩手・宮城内陸地震があり、ご存知のとおり、2011年には東日本大震災が発生しました。地震に対する備えや住宅・公共施設等の耐震化についてはさまざまな形で対応していました。私たち宮城会は2004年の新潟県中越地震時には応急危険度判定の依

頼を受けて北陸地方整備局に30名ほどで支援に行きましたが、応急危険度判定はその後のフォローが重要だと実感しました。その経験をもとに宮城に戻り、宮城会が中心になって自力再建復旧支援体制のマニュアルを作っています。

佐野 宮城県というどうしても3.11に目が向きますが、その前後の地震での経験があって支援体制ができたことが理解できました。新潟県中越地震のご経験からフォローの重要性がわかったのは非常に大きな成果だったと思います。

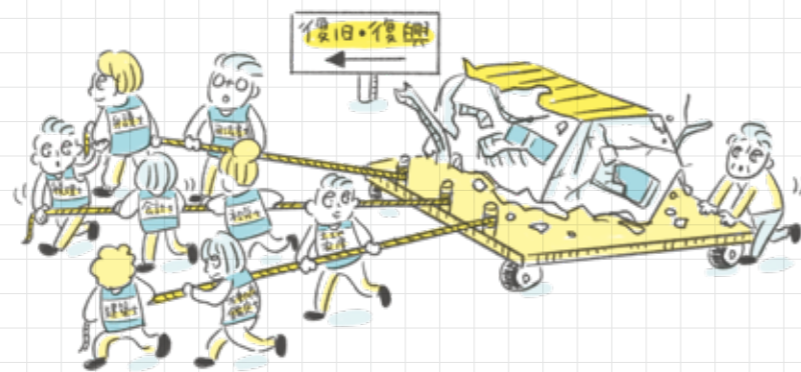
各士業との協力が不可欠

須田 建設関係以外の他の団体との連携も必要ですね。2019年の台風のときには私たちは専用回線で1年以上電話相談を受け付けていましたが、保険絡みの話など弁護士を

必要とする話も少なくない。災害時には消防、警察、ときには自衛隊活動が初めに来ますが、その次には建築士事務所ならではの役割が来る。そのときのためにも情報連絡網の整備が不可欠だと思います。

丸川 岡山県では、建築関係団体が協力して倉敷の水害以降、岡山県被災者支援士業連絡協議会と連携をとっています。国交省の住宅リフォーム事業者リストを使って工務店団体とも手を組み、県と応急修理協定を結んで瓦工事協同組合といっしょに行動するマニュアルもつくりました。建築相談の業務マニュアルもできています。ただ、協定を結んでも基本的に県からは費用が出ません。国交省の補助金が出たらそこから出しますという話になっている。協定書を結ぶときにはこれがネックになっています。

南 しかし、国の動きも以前よりは早くなったように思います。熊本県では2022年3月に熊本県、熊本会、社会福祉協議会、建築士会で協定書を結びました。社会福祉協議会から被災後の家屋について依頼がきたら即座に動くという内容で、費用負担については第5条に入れてもらいました。それが無い限り、皆を動かしていくのは無理ですよ。金額が決まっていると動きやすい。1日行ってもそれなりの費用が出るので、安心して動けるようになりました。



様々な観点から意見が出された座談会の様子

高橋 2021年5月に災害復興まちづくり支援機構や宮城県災害復興支援士業連絡会など4つの会で全国災害復興支援士業連絡会を立ち上げました。宮城会では、建物の復旧については相談体制を構築していますが、建築士だけでは災害対応はできません。各士業の方々の協力は不可欠です。大きな災害になればなるほど、いろいろな業種の人と一緒に知恵を出し合わないと支援はできない。皆さんにもぜひ加盟していただき災害に備えたいと思います。

佐野 次に情報環境についてはお伺いしたいと思います。さきほど須田さんからチャットツールのお話があったのですが、どのような効果がありますか。

須田 使い勝手がいいですね。全員通知もできますし、今回、台風が重なったときも注意喚起を流しました。ただし、1人あたり300円/月ほどではありますが費用は発生します。現在は支部長クラスまでにとどめていますが、最終的には全会員に持っていきたいですね。

佐野 ここ数年、情報の分散化やクラウドの活用が進んでいますから、いいものをタイムリーに使いたいですね。一方で、紙媒体の保存についてはいかがでしょうか。

中村 基本的にデジタル化は避けて通れないと思いますが、倉敷市真備

町のようにまるごと水没してしまうと、CADの図面データは全滅します。クラウドにしても通信回線が復旧しないと使えないという問題がありますよね。その点、紙は溶けてしまわない限り使えますから、時代に逆行するようですが、水害後、ケースバイケースで紙媒体などアナログ方式による保存も併用するようにしています。

須田 私は日事連に、BIMも含めたクラウドの維持管理システムを望みたいですね。それなら自分の事務所が罹災しても関係ない。パスワードさえあればどこからでも入れます。現状、国産BIMは1社だけで、後は海外系です。将来、都市開発関係の情報も入ってくることを考えると、国としての安全保障を考える必要があると思っています。日本のソフト会社が日事連と協力して維持管理システムを含んだクラウドBIMを作れないでしょうか。

佐野 現状、BIMは建築と土木が別々ですが、国交省が開発したプラットフォームで広域のデータベースをつくることもできそうです。災害時のすみやかな情報共有は重要ですね。

高橋 自分が住んでいるところや仕事をしている場所の状況を把握することも大事だと思いますね。私は宮城県沖地震の後で自宅の耐震改修をしたので、3.11のときはすぐに支援に回れました。

佐野 なるほど。個人の安全を確保してこそ地域支援なのですね。

いかに後世に伝えるか

佐野 災害アーカイブについてはいかがですか。さまざまな経験は蓄積されているのでしょうか。

高橋 災害直後は情報を共有していましたが、3.11の後、わずか11年半で、津波に被災した地域と内陸部とでは認識が違ってきています。

佐野 阪神・淡路大震災の後、神戸に「人と防災未来センター」ができましたよね。そこでは阪神・淡路大震災のアーカイブだけではなく防災研究もしています。規模は別として各地域にあのような施設があった方がいい。きちんと伝える手段があると次に続くでしょう。

南 熊本地震の後、防災や地震の内



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 西館4階 震災直後のまち

西3階 震災からの復興をたどるコーナー



気仙沼市 東日本大震災遺構・伝承館の震災遺構



西日本水害後の小田川治水工事

容を展示し、震災ミュージアム施設を作る計画が持ち上がりました。今企画している段階で、あと1年ぐらいかかりそうですが、小中学校が社会科見学用として見て回る施設の計画が進んでいます。

中村 次の世代に継承するには行政の方での本格的な仕組みが要るでしょう。岡山では東日本大震災をきっかけに岡山県文化財等救済ネットワークを構築して図面等の資料をアーカイブしています。また、西日本豪雨時に決壊した小田川の土手を修復して、幅が100メートル以上の堤防ができましたが、ここを防災公園にするという計画もあります。

高橋 宮城県はうまく残っていますよ。気仙沼・石巻・南三陸町・仙台・亶理町などでは施設をそのまま残し、いつでも誰でも見られる状態に整備しています。地元には、各自がそれぞれ高いところに逃げろという意味の「津波てんでんこ」という言葉があります。3.11では、石巻市大川小学校児童74人と先生10人が亡くなりましたが、校庭に皆が集まって父母の児童の迎えを待っているところに津波が来たからです。近くには小学生でも登れる山があった。こうした言葉を伝

承し、高いところに逃げる教育は必要ですね。

南 熊本県は東海大学の阿蘇キャンパスを残しています。そこに断層ラインが入っているのです。しかし、そのままにしているので、5年10年で跡形がなくなりそうではあります。

佐野 こうしてみると、会員の防災力を高めることは重要です。どのような知恵が必要だと皆さんは思われますか。

高橋 災害時にガソリンがなくなると、支援活動や相談対応に行きたくても行けなくなります。食べるものも店の在庫が直ぐなくなりますね。皆一斉に買い物に行くので、補給されない限り店に商品が入ってこない、流通手段も途絶えますからしばらく食料は手に入りません。応急危険度判定は震災3日後に始めましたが、現地に持っていく昼食もありませんでした。そのときの経験から、水や食料は1週間分、ガソリンは残量が半分になったら必ず入れるようにしています。今の車は半分で300キロくらい走りますからね。

須田 私は3.11以降、家の外にキャンプ道具とかテントや寝袋・水・ガスボンベ10本を置いています。それが一番の対策ですね。

南 私のところはプロパンガスだったので困りませんでしたが、都市ガスだったら1ヶ月ぐらいかかったと思います。水道も飲料水はなんとかありますが、生活用水の不足が困りました。

丸川 まず、災害で大事な個人が生き延びること。それは基本ですね。

組織を維持し、技術を活かす

丸川 建築士事務所の組織や今やっている仕事をどう継続するかについても考える必要があると思います。従業員への給料も払わないといけなし、お金のやりくりも欠かせない。組織維持は大きな問題でしょう。

南 熊本県では地震の1ヶ月後に、文科省から現地調査の依頼を受けましたが、すぐにお金が入るわけではありません。スパンが3~4ヶ月ありました。私のところはいいですが、少人数の事務所は大変ですから、なんとかしてほしいをお願いをして3分の1ほど出してもらいました。

丸川 それは重要な点ですね。住宅相談などで技術を活かすことができるのも組織を維持できてこそだと思います。2021年に会員にアンケート調査

を実施したら、半数が自治体と協定を結んでいたものの、ボランティアでした。日事連で指針のようなものを出してもらおうと助かりますね。

高橋 宮城県では住宅等の復旧支援助成はありませんでした。相談対応や調査協力で県から一定の調査料を住民から徴収するとの了解のもとで、仕事が止まった事務所の助けになる日銭を稼ぐことができました。大きな災害時に人を動かすには費用を捻出するシステムが必要になります。そうでないと、長いスパンでの被災地での支援は難しいのではないのでしょうか。

佐野 まさに課題の中に知恵が潜んでいる感じですね。では最後に、そのような防災の経験をふまえて、建築士事務所の未来に向けてメッセージをお願いします。

須田 理事や執行部は2年に1度切り替わりませんが、取り組み内容を的確に継承することが大切ですね。また、連絡網やデータの担保は必ず行いたい。何より、組織としてどういった対応をするのかの見直しから始めたいと思います。

中村 私が気になっているのは中心市街地の空き家です。災害時に困りますから、空き家になる前に手続きを

働きかけるなど、空き家にしない活動を行っています。それから、岡山の学生との関わりを活かして、防災を教育のテーマに取り入れたい。大学・高校などとも連携し防災教育を行いたいと思います。連絡網も課題ですね。FAXや電話しかないですから、事務局とも相談をしながら今の時代にあった連絡網を再構築していきたいと思っています。

丸川 今回の座談会で、食べ物なくなる事態について考えさせられました。今後は岡山会や私の事務所のスタッフとともに、災害のこういときにはどうすべきかを話し合い、ネットワークを組みたいですね。また、中村さんのお話にあったように、建築を学んでいる学生の教育の中に防災を取り入れ

る働きかけをしていきたいと思っています。
南 日事連にしても単位会にしても若い人が積極的に活動できる集まりにしなければなりません。何かのときに進んで動いてもらえる体制を作りたいですね。

高橋 総務省が都道府県に大規模災害時に派遣可能な土木や建築の行政職の技術者人数を聞いたところ210人に過ぎず、総務省が考えていた1,000人確保にはほど遠い結果だったという報道がありました。これでは被災した都民や県民が大変な状況に陥るのが目に見えています。日事連においては災害が起きたときの体制や各都道府県への支援がどのくらいなくてはならないかというシミュレーションが必要ではないでしょうか。今後東京直下、東南海の地震大災害に備えた日事連の役割が増すことは間違いありません。

佐野 日事連が動くための災害マニュアルはまとめてありますが、シミュレーションも含めてどのように運用するかは掘り下げたいですね。今回は60周年を節目に災害について活発な意見をいただきました。会員事務所がそれぞれ知恵を絞って世代を超えて、社会に対する責任感を持ち、安全・安心な社会に向けて取り組んでまいりましょう。ありがとうございました。



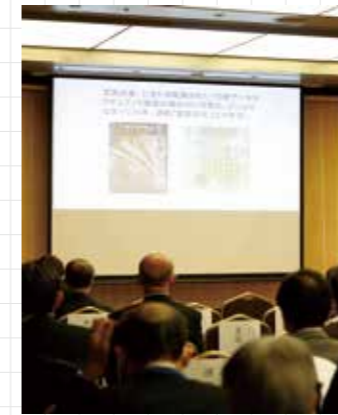
シンポジウム

次世代を生き抜く 建築士事務所の課題と 日事連の役割

2022年12月14日、日事連の創立60周年記念のシンポジウムを開催しました。建築士事務所が今抱えている課題や生き残りのための道筋、そこで日事連に期待される役割とは!? 文章とイラストで建築・都市・デザインをわかりやすく伝える活動を展開されている宮沢洋氏のコーディネートのもと、事務所協会の若手会員、新進気鋭の3名をパネリストに繰り広げられた活発な議論の模様をご紹介します。



「次世代を生き抜く」のための話題提供
副題:
30年間、ずっと不思議に
思っていた
建築士設計事務所の
業務範囲
宮沢洋



宮沢洋氏の公演の様子と
当日の資料(抜粋)

これからの設計の仕事は
2つのベクトルで変化する。
〈建築家の可能性を広げる
2つの方向性〉
1. 「建てるまで」から
「建てた後」へ
2. 「点」から「面」へ

現場は「DX」に本腰、
新しいデザインへの移行期。
〈建築のつくり方が変わる〉
現場DX

「座して待つ」美学はいまだに根強い。
おそらく大きな理由
は、1970年代後半
の「公取問題」
(設計料率問題)。

環境の知識はあって当然、
「強み」ではなくスタートライン。
〈環境意識と職能集が設計を導く〉

資料中のイラスト：宮沢洋(書籍『建築学生のための就活ガイド』/総合資格学院発行から引用)

「次世代を生き抜く」 ためのヒント

建築士事務所の業務範囲の 新たな可能性とは!?

宮沢 まずは自己紹介をさせてください。私は画家かつ建築ネットマガジン「BUNGA NET」の編集者として活動しています。大学を出て日経BP社に就職したのが1990年。当時はバブルの真っ只中で建築の世界も大いに盛り上がっていた時期でした。私は文系出身なのですが、猫の手も借りたいということで「日経アーキテクチュア」に配属され、そこで建築の面白さにはまりました。私がイラストを、相棒の磯達雄(現・建築ジャーナリスト)が文章を担当する「建築巡礼」という連載は結構人気がありまして、2023年には19年目に突入します。「日経アーキテクチュア」の編集部には結局30年在籍し、編集長も務めました。専門誌でやれることはやり

きたという思いから2020年に退社しました。独立後は専門家向けの記事も書いていますが、私のテーマは建築の専門家と一般の人をつなぐことです。今回のお話をいただいたのが2022年の夏前。実は最初は消極的でした。というのは「日経アーキテクチュア」を辞めたのが2020年初めで、その後、すぐにコロナ禍になったため、コロナで建築がどう変わるかというテーマだったら最新事情をお話できないからです。どのような話をすればいいのかと関係者と打ち合わせをしたときに、「ずっと不思議に思っていた話があります」とお話ししたら「ぜひそれをお願いします」という流れになりました。何を不思議に思っていたかという建築士事務所の業務範囲です。私はこれからの設計の仕事は2つのベクトルで変化すると思っています。1つは「建てる前から建てた後へ」。もう1つは「点から面へ」です。この2つのベクトルで考えると建築士事務所の新

しい可能性が見えてくる。逆からいえば手つかずの部分が多いので、それを不思議に感じていました。2つのベクトルの前提条件をお話すると、日本の人口についてはいろいろな予想が出されていますが、私は世帯数が重要だと思っています。人口は減っていても単身世帯が増えているため世帯数はむしろ増加していましたが、2023年にはピークに達し、その後は減少に向かいます。世帯数が減れば住宅建設にかなりの影響が出ることは間違いありません。本当に厳しくなるのはこれからでしょう。振り返れば、私が「日経アーキテクチュア」に配属された1990年はバブルの絶頂期でした。当時、設計は頼まれてからするものでしたが、バブルがはじけてからは提案していこうという流れになったんですね。依頼がなくても自ら提案する。その流れを作ったのは安藤忠雄さんです。彼の「連戦連敗」という著書にはコンペでたくさん負けた話が出てきますが、依頼がな

座談会出席者

コーディネーター



宮沢 洋
画家、(株)BUNGA NET 代表兼編集長
前・日経アーキテクチュア編集長
日経アーキテクチュア編集長退任後、2020年磯達雄氏とOffice Bunga共同主催
2021年 BUNGA NET 設立



永井 菜緒
(株)SWAY DESIGN
石川会理事
都内の店舗設計施工会社などで勤務後、2014年 SWAY DESIGN 設立(2018年株式会社移行)



高野 良樹
一級建築士事務所 A-SQUARE ARCHITECTS DESIGN
兵庫会常任理事、青年部・女性部合同委員会委員長
工務店勤務後、2015年 A-SQUARE ARCHITECTS DESIGN 設立
2020年～兵庫県立大学環境人間学部非常勤講師



菅股 篤
軒軒設計一級建築士事務所
神奈川会会員、青年部会運営委員
アトリエ系建築士事務所勤務、資格取得後個人での活動をスタートし、2022年 軒軒設計一級建築士事務所設立

司会：白井 勇 副会長

くても提案して負けたという話も多い。「座して待つ」という美学は未だにこの業界に根強くありますが、安藤さんは独学で道を切り開いてきた方で、業界とは何らしがらみがない。だからこそ旧弊を破ることができたのだと思います。

現場も変わってきています。自動施工や3Dプリンター、ドローンによるAI管理、溶接ロボなど、現場はDXに本腰を入れています。もう新しいデザインの移行期といっていいでしょう。環境に関する知識も、あって当然になりました。2000年以降は環境へのニーズが高まり、もはや気候変動や脱炭素への対応は「強み」ではなくスタートラインです。

このような状況を踏まえると、「建てるまでから建てた後へ」と「線から面へ」という2つのベクトルが明らかになります。しかし、「建てた後」の領域を開拓しようという人はあまりいません。サブスクリプションに見るように、世の中で儲かっているビジネスのほとんどは「作った後」にフォーカスしていますが、建築設計の人はなぜここをやらないのか不思議でならないのです。もっとも面白い動きもありますね。「誰も知らない日建設計」の本を書く中で注目したのが渋谷区立北谷公園のリニューアルです。日建設計を含む企業コンソーシアムが、公園を地域の賑わいを創出し活性化する拠点にするため、渋谷区内の公園で初めてPark-PFI 制度（公園の整備を行う民間の事業者を公募し選定する制度）を活用しました。内部にカフェやイベントエリアを設置し、交流と発信のある新しいかたちの公園を目指しています。この案件で日建設計は指定管理者の一員となるために会社の定款を改定し、公共空間の「運営」に投資する仕組みを作りました。建築士事務所



永井氏のプレゼンテーション

が運営にも関わるようになったという意味では注目すべき取り組みだと思います。建物単体ではなく、建物の周辺空間にまで目を向け、地球環境に適した建物の調査を行ったり、建物の運用のための提案を行ったりという方向まで考えると手薄な領域はまだ多い。これから切り開くべき新しい建築の仕事ではないでしょうか。

分断されがちな領域を横断して最適な判断をする建築士事務所

宮沢 ここからはディスカッションに移りましょう。お一人ずつ簡単な自己紹介をお願いします。

永井 石川会の理事を務めている永井です。大学を出た後、東京の設計施工会社で施工管理の仕事をしていましたが、2014年に石川に戻り、個人事業主として独立しました。2018年に法人化しSWAY DESIGNを立ち上げて、主に調査設計施工を行っています。依頼の1割が新築で、ほとんどが改修工事です。そのほかに、不動産企画と解体コンサルの業務も手がけています。

不動産企画はお客様の課題を解決するために始めました。例えば、家を

相続したけれど使わないし、どうしようかと不動産会社に相談すると、「200万円かけてリフォーム改修して貸しましょう」と言われる。でも、石川県は家賃が安いので、毎月の賃料が5万円だとするとプラスマイナスゼロになるのは3年後。そこからようやく収益化できますが、いったん手元の資金を出さなくてははいけません。そうした問題に取り組んでいるのが不動産企画の「建物の未来をつくるよいチョイス」という事業。所有者の支出をなくし、所有者に投資をさせず、建物と使い手をつなげることが狙いです。

賃貸に出されていた事務所用の建物を「原状復旧無し」という条件で菓子店にしたこともありました。事務所として貸そうとすると古くて借り手がつきません。一方で飲食店をやりたいと不動産屋へ行くと飲食店向けの物件ばかり紹介されます。そこで、一級建築士事務所の強みを生かして設備を追加し、菓子店に改修しました。私たちが重視しているのは、そのままだと価値がないものを企画から不動産の見極め、法的な調査まで行って市場に戻すこと。分断されがちな領域を横断して最適な判断をするのが建築士事務所の今後の方向性になるのではないかと考えています。



gartenの改装：(株)SWAY DESIGN (永井氏)

このような例もあります。あるお客様が相続物件をそのまま賃貸に出そうと不動産屋に相談したところ、水回りの改修に200万円かかると言われたそうです。しかし、過疎化しているエリアなので借り手が見つかるとは限りません。そこで「6年間弊社に貸して」と持ちかけ、固定資産税年間8万×6年の48万円で借り上げました。それからスタッフが空いている時間に手を加えて少しずつ価値を上げ、弊社が工事した分を回収できる金額で賃貸に出しました。

解体コンサル事業の「賛否、解体」についても同様ですね。空き家期間が長い建物を残すべきか、解体すべきかの賛否を調査する業務です。例えば、金沢市の東山観光地にある建物を物販店にしたいと相談された案件では、改修工事を1,500万円と試算しました。これでは物販店に変えても利益が出るのは7年目か8年目になります。そこでお客様には解体を提案しました。結局、解体して月極駐車場にし、年間8%ぐらいの収益が出る物件になっています。安易な解体や不要

な延命に走らず、お客様の要望を鵜呑みにせず合理的な判断をして、ときには作らないという判断も下しています。

宮沢 非常に面白いですね。前職だったら記事にしたいところです(笑)。解体コンサルとおっしゃいましたが、報酬をもらっているものなのでしょうか。
永井 建築行為が発生すれば建築士事務所の意味が出ますが、壊すとすると利益が出ません。そこで弊社では一般建設業の許可を取りました。解体工事を自社で請け負っているので、解体するにしても残すにしても改修するにしても、どの答えが出ても仕事として発生します。もし土地を売却するということになれば不動産の免許も持っている(笑)、仲介手数料が得られます。

宮沢 どの選択肢であっても利益が出るビジネススキームなんですね。

永井 はい。解体して更地をどうするのか、売却するのか、アパートか駐車場にするのか。どういった収益プランがあるのか。お話を聞いたら必ずそ

の後に設計業務と工事も含めて提案しています。もしアパート経営をするのであれば、「大手ハウスメーカーを紹介するのでこの数字の根拠を使って、次に行くべき道筋の地図として使ってください」と提案し、その部分だけを仕事にさせてもらっています。もちろん、弊社の設計が好きということであれば弊社でやらせてもらいますし、他の事務所を紹介することもあります。

宮沢 特集記事が組めそうですね(笑)。

建物と生産活動の一元化を図る

宮沢 次は高野さんに自己紹介をお願いします。

高野 兵庫会で常任理事を務めている高野です。2015年にA-SQUARE ARCHITECTS DESIGNを設立し、8年目になりました。私は基本的にものづくりが好きで、建築も大好き。楽しむことを大事にしています。プライベートでもそうですね。悪い点は飽き性のところ(笑)。同じ



ガレージヤードのある家：一級建築士事務所 A-SQUARE ARCHITECTS DESIGN (高野氏)



高野氏のプレゼンテーション



菅股氏のプレゼンテーション

作業を続けるのが苦痛なんです。人との関わりを重視し、人が生み出す力や化学反応を楽しみ、その中で創り出される建築活動と建築空間を楽しむことが建築家としてのスタイルです。大学を出て最初は某工務店に就職しました。住宅メーカーでは基本、営業職が設計を受け持ち、建築士は確認申請をメインに行います。僕も設計分野ではなく、営業職についていました。10年ほど勤めましたが、分業体制に不満がありましたね。工務担当者は現場を見ないし、設計は確認申請に特化して現場から切り離された事務的業務に従事している。設計の意図が伝わっていないし、すべて流れ作業です。建築全体の仕事を習得できましたが、お客様との間で板挟みになり、分業はあまり良くないのではないかと考えるようになりました。そうした思いが募って疲弊したことが独立の契機です。独立してからは、設計と施工を一元化しています。設計施工だけにこだわらずいろいろやってみたいという思いも強いですね。住宅だけでなく店舗などいろいろやってみたいし、多様性がある建築の手伝いをしたいと

考えています。建築は十人十色。個々の人に合わせた建築が必ずあります。僕が飽き性だということもありますが、量産するものではないと思うんですよ。目指しているのは、建物と生産活動の一元化や顧客と施工者とのface to faceのお付き合い、さらには人に優しい建築。基本的にシンプルでこだわりのある建築物です。ビジネスモデルは、調査からデザイン、建築まですべてを自分でやること。なんでも自分でやってみよう、Spirit of Tryingがモットーです。ニーズやトレンドを自分で確認し、建築物も自分で作る。メンテナンスもあるのでお客様とは長いつきあいになっています。**宮沢** クライアントとしては設計者として信頼した方に施工もお願いできれば安心できると思いますが、何かハードルがありますか。**高野** やってみて実感していますが、工務店までやるのはなかなかしんどい。限られたマンパワーの中でやるのは大変です。**宮沢** 高野さんの事務所は高野さんご夫婦ともう1人、合わせて3人で運営されていますよね。ミニマムにされているのには理由がありますか。

高野 設計を自分できちんと管理したいのです。人に任せると違う解釈が起こりうる。良い結果を生まないと思います。とはいえ、ミニマム化した事業には問題点もあります。宣伝力が乏しいですし、打ち合わせから設計、工事・監理、アフターメンテナンスまでやるので時間もかかります。その解決策として集客は紹介で補うようにしました。次から次に仕事をつなげていくことに舵を切ったんです。あとは開き直り(笑)。自由に創作して楽しむ。プラス、横のつながりを強化するためにコミュニティの形成にも力を入れ、2021年にはいろいろな建築士事務所とコラボできる団体を立ち上げました。その結果、全部を自社でやることで、価格は手頃でデザイン性が高い建物を提供できるようになりました。例えば、中庭のある家だったり、回転ドアのある家だったり、からくりハウスだったり、空中回廊がある家だったり。可能性を広げるために2022年には不動産会社と工務店も設立し、コンサル事業も手掛けています。2023年は「住」から「食」への進出や、都市から田舎へ地域活性化事業も計画しています。

開業間もないながらも横のつながりでプロジェクトを受注

宮沢 菅股さんは2022年4月にご自身の事務所を立ち上げたばかりなんですね。**菅股** はい。スタートしたばかりなので今勉強している最中です。私がこの業界を意識し始めたのは中学生のときに見ていたテレビ番組「劇的ビフォーアフター」がきっかけでした。実家は中華料理屋を営んでいるので、料理か建築か道に悩んでいましたが、設計への興味が勝り地元の千葉県の工業高校に入りました。高校で製図や設計の基礎を学んでいくうちに楽しくなって大学で設計を専攻し、卒業後は逗子市の事務所に入所しました。そこで6年間、住宅や保育園などを担当させてもらいました。当時は所員という立場ながら神奈川会の皆さんに仲良くさせてもらい、青年部会やワーキングの立ち上げにも携わっています。私の事務所の名称、軒軒(けんけん)設計の由来についてよく聞かれますが、「高く舞い上がる様子」を表す言葉と、実家の中華料理店の店名である

「一番軒」から取りました。独立して短いですが、幸いなことにたくさん仕事をいただいています。例えば、天神社社務所建て替えプロジェクトは前の事務所とのつながりで宮司さんを紹介してもらった案件です。社務所と職員宿舎の兼用住宅ですね。別の案件では大学時代の先輩から声をかけてもらい、愛知の建設会社の新社屋も設計しました。最初は改修という話でしたが、新しく建物を建てることになり共同設計をしています。同様のつながりから保育室の移転プロジェクトも進めています。これは前の事務所

で保育園の設計経験もあり、共同設計につながっています。**宮沢** 昨年4月に開業したばかりで発表できるプロジェクトがたくさんあるのはすごい。営業力がありますね。**菅股** 横のつながりを実感しています。大学の先輩や前の事務所の上司など、自分の周りに良い人が多いんです。人徳というのは冗談ですが(笑)、良いつきあいができていたのかなと思います。**宮沢** 千葉ではなく、逗子の事務所を選ばれたのはどのような判断からですか。**菅股** 千葉への地元愛はありますが、逗子ののんびりとした空気やロケーションに魅力を感じました。せっかく良いつながりができたので、独立するときにも地元に戻ろうという考えにはなれず、ここで仕事を広げていこうと考えました。

建築と不動産との間に設計に携わる人間が入っていく

宮沢 自己紹介をしていただいたところで、建築設計業界の今後についてお聞きしたいと思います。こんな



K 保育室移転プロジェクト：軒軒設計一級建築士事務所(菅股氏)



風が変わってほしいという要望はありますか？

永井 建築の会社はどのお客様には「一生のおつきあいをよろしくお願ひします」と言っていますが、その物件を最後にどうするのかについては無頓着だと思います。逆に、不動産業界は出口戦略の話ばかりしますよね。スタートアップとかスモールビジネスも始まった瞬間に「出口」「出口」と言い出して、どう売り抜けるかを最初から考えています。

宮沢 確かに「出口」とよく言ってますね。

永井 両極端なのです。不動産会社はお客様が生きてきた場所をどのような形で終えるのかよりも、金銭として損をしないことに重きを置いている。対して、建築設計業界はお客様に心情的に寄り添ってはいても、30年、40年後の空き家問題も含めてどれくらい先を考えているのかという疑問です。建築を作っている側も資産的なところにも少し入ってもいい。建築と不動産との間に設計に携わる人間が入っていければいいと思います。

宮沢 大学で建築を学んでいるころからそういう意識でしたか？

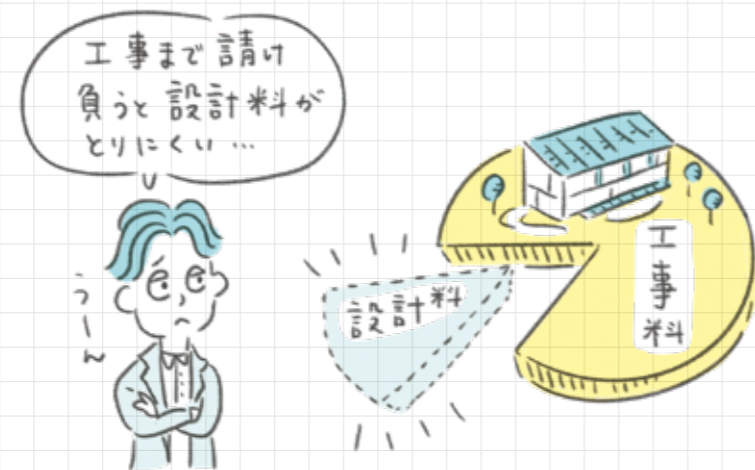
永井 大学は環境学科でしたが、最初に入った会社ではチェーン店ばかりを扱っていました。そこで消費の対象として速く安く造られる建築をさん

ざん見てきたので、造ったものが環境や地域に及ぼす影響や建築はどうあるべきかが自分自身のテーマになったんですね。

宮沢 永井さんの意識は30年前に私が感じたものと同じです。高野さんはこう変わってほしいという業界像はありますか？

高野 僕が言うのもおかしな話ですが、建築士事務所と工事は明確に分かれてほしい。それぞれがポジションを守ってほしいと思っています。一緒になることで良い点もありますが、建築士事務所としての報酬が取りにくくなります。それは決して良いことではありません。個人的には設計の報酬をきちんともらいたいという思いが強いですね。

宮沢 高野さんの事務所では設計だけの仕事をやることもあるのですか？



高野 やりますよ。設計単体での依頼があれば引き受けます。ただ、工事まで請け負った場合、設計報酬がまともにとれなくなるのです。

宮沢 バブルの頃は、設計施工を請け負っても設計料は別にもらうべきだという意見がありましたが、だんだんトーンダウンしてしまいましたね。きちんと報酬を分けるべきという高野さんの意見を永井さんはどう思われますか？

永井 私たちが提供しているのは専門的なサービスなので、次のフェーズの仕事を取るための手段として営業するのは良くないと思います。報酬をもらうからこそ責任を持って答えを出せる。解体コンサルで「この規模だと20万円です」というと、お客様が真剣に自分の課題を洗い出して、話がしっかり成立する。ところが、サービスと言われた途端に片手間になるんです。設計は工事とセット、設計はタダでやるものという考えを持ってはダメだと思います。

宮沢 永井さんの事務所も設計だけの仕事を受けることはありますか？

永井 相談が設計から始まることはすごく多いです。ただ、今自分たちが作っている枠組みを疑うべきではないかという思いは強いです。設計だけにこだわらず一旦すべてを俯瞰



し、その結果として設計だけを引き受けることもあれば、お客様の要求から外れることもある。両方あり得ると思っています。

宮沢 菅股さんはまだ開業して半年ぐらいしか経っていませんが、この業界はどんな風が変わってほしいと思われますか？

菅股 大きいビジョンはまだありませんが、永井さんから「分断されている窓を横断していく」というお話がありました。そうした建築士事務所があることはもっと一般の人にも知ってもらいたいですね。そうすれば幅が広が

るはず。一般の人からの業界の見え方が変わってほしいと切に思います。

事務所協会に入ることのメリットをアピールしていきたい

宮沢 90年代は建物がたくさん建つ場所に事務所がないと仕事はやりづらと言われていましたが、ここ4、5年で相当変わってきたようですね。皆さんは地域でどのようにネットワークを築き、お仕事を取っていらっしゃるのでしょうか。



空き家だった実家をショールームに：(株)SWAY DESIGN (永井氏)



創立60周年記念式典

シンポジウムに続いて開催されたのが日事連創立60周年の記念式典です。記念式典の様子を写真でご紹介しましょう。



児玉耕二会長による式辞



来賓挨拶 豊田俊郎国土交通副大臣

てもらい、空き家のリノベーションのショールームとして立ち上げました。そこで母に電話番号をもらっていたら、ショールームの一画で蕎麦屋を始めました。菅股さんのご実家は中華料理屋ということでしたが、私の実家はもともと蕎麦屋なので(笑)。蕎麦屋兼フロントデスクを作って、「うちの事務所はこういうことができます」という流れを作るまでに2年かかりましたね。それまでは1枚いくらで、下請けの図面描きをしていました。

宮沢 公共の仕事はやらないんですか。

永井 去年初めて「指名願い」をやってみました。社内でもどういう手続きをすればいいのかわからない(笑)。結局、一つも応募しないままです。

宮沢 公共の仕事をやなくても事務所が回っているのはすごいですね。地域とネットワークづくりについて高野さんのお考えはいかがでしょう。

高野 兵庫県で生まれ育ち、大学も兵庫。事務所も兵庫ですから地域で生かされているという思いは強いです。地域を大事にしたいですし、仕事も自然と地元から入りますが、以前名古屋で店舗の改装をした時に、主

催している団体 H.A.A.P (Hyogo Architects & Associates Platform) のメンバーの知り合いである名古屋の建築士事務所から業者を紹介いただいたことがあります。横のつながりで仕事を紹介してもらっているとエリアが広がるんですよ。ネットワークにはすごく助けられていますね。信頼もできますし。

宮沢 菅股さんはすでにネットワークの中で仕事をされていますよね?

菅股 そうですね。現在は大学時代のネットワークが中心ですが、今後は神奈川会の青年部会でネットワークを拡げ、その中で仕事につなげていきたいなと思っています。

宮沢 最後に日事連や事務所協会に対する期待や要望をうかがいましょう。

永井 世代が違う中で面白がって応援してくれる人がいるのはありがたいです。このような機会に皆さんにお会いできたので、何かしらプロジェクト的な企画ができればいいなと思います。

高野 前から思っていることですが、弁護士と医師と建築士には罰則規定がありますよね。でも、罰則規定が一番厳しくて報酬が一番少ないのは建築士! 建築士の数は医師や弁

護士よりも多いです。事務所協会としてまともな国に対していろいろなことができるのではないのでしょうか。そのような組織になってくれることを願っています。

宮沢 私が言おうと思っていたこととほぼ同じです! 菅股さんはいかがですか。

菅股 協会に入って数ヶ月ですが、いろいろ勉強させてもらっています。ただ、周囲に30代の人が見当たらないんですよ。もしかしたら私達の世代では協会に入ることのメリットが見えづらいのかもしれませんが。青年部会を盛り立てて、次世代をつくらなければと思っています。要望というか抱負ですね。ネットワークが作れることをアピールしていきたいと思っています。

宮沢 有能で個性的で実に頼もしいお三方とディスカッションできてよかったです。60周年という節目の会でこうした若い建築士の意見を聞こうという日事連の姿勢が素晴らしいなと思いました。こうした姿勢があるのですから、次世代も非常にいい感じで変わっていきけるのではないかと期待しています。ありがとうございました。■



創立記念表彰
(単位会事務局職員永年勤続表彰)



額賀福志郎衆議院議員・議連会長



山本有二衆議院議員・議連事務局長



記念式典の様子

＝ 記念式典概要

開式の辞
岩本茂美副会長

式 辞
児玉耕二会長

来賓挨拶
豊田俊郎国土交通副大臣
額賀福志郎衆議院議員
自由民主党建築設計議員連盟会長
山本有二衆議院議員
自由民主党建築設計議員連盟事務局長

来賓紹介

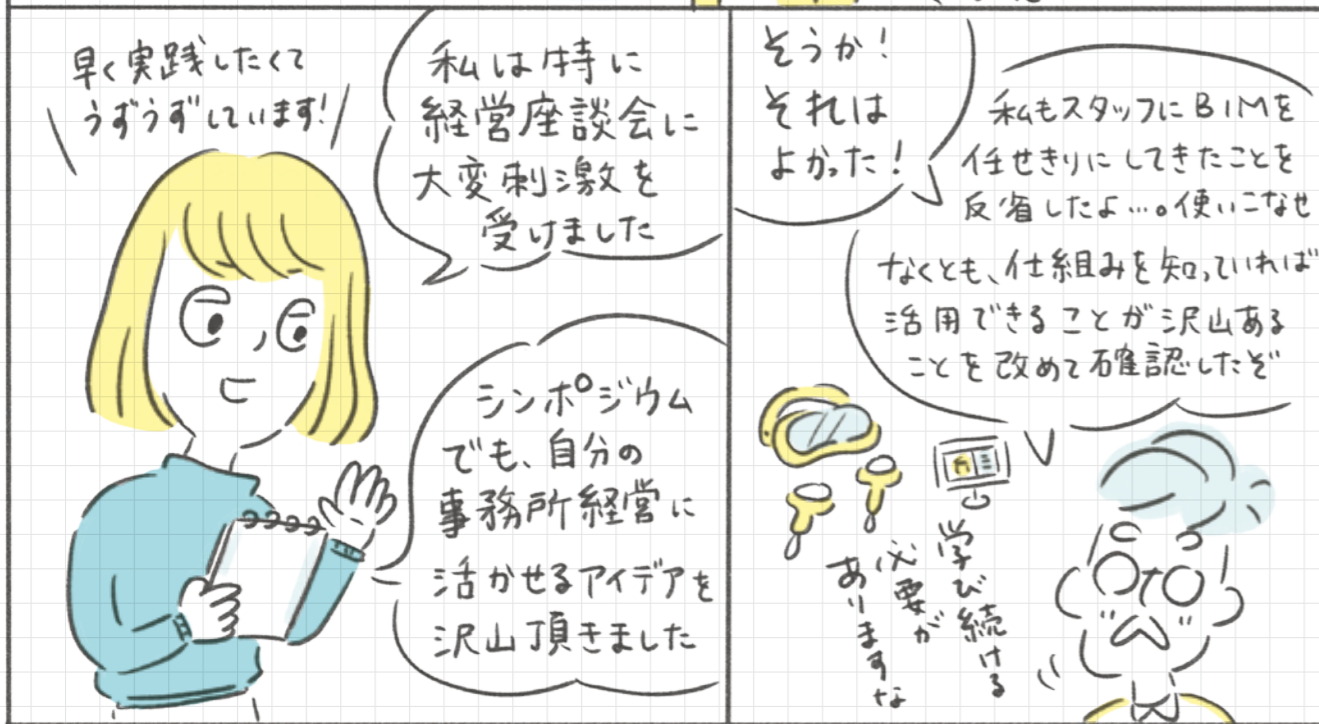
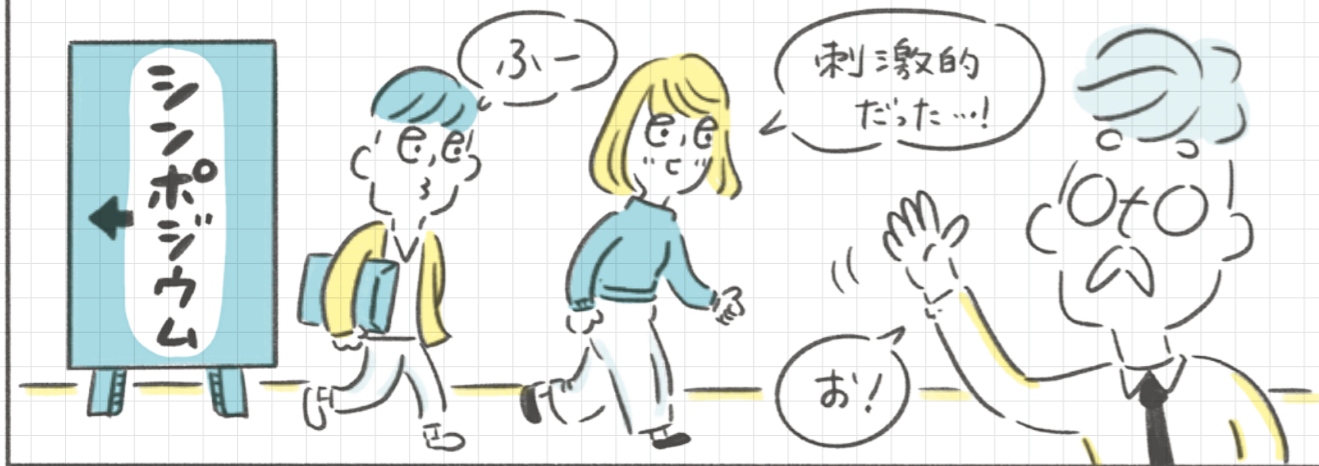
祝電披露

創立記念表彰(単位会事務局職員永年勤続表彰)
合計43名表彰

日事連建築賞60周年記念賞について
児玉耕二会長

閉式の辞
木下賀之副会長

結 び



正会員名簿

名簿URL
[事務所協会一覧](https://www.njr.or.jp/society/) [賛助会員一覧](https://www.njr.or.jp/link/) [日事連サービス](https://njs-ins.com/)

R5.1.31現在

名称	会長名	住所 TEL	創立日 日事連入会日	会員数
(一社)北海道建築士事務所協会	庄司 雅美	〒060-0806 札幌市北区北6条西6-2 設計会館9F TEL 011-788-7650	S27.5.28 S37.9.14	994
(一社)青森県建築士事務所協会	加藤 彰	〒030-0803 青森市安方2-9-13 青森県建設会館5F TEL 017-773-1596	S36.4.1 S41.9.20	164
(一社)岩手県建築士事務所協会	佐々木 章	〒020-0016 盛岡市名須川町18-16 建築会館 TEL 019-651-0781	S55.1.1 S55.7.1	272
(一社)宮城県建築士事務所協会	高橋 清秋	〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-2-40 宮城県建築設計会館 TEL 022-223-7330	S56.6.15 S56.10.1	328
(一社)秋田県建築士事務所協会	村田 良太	〒010-0951 秋田市山王3-1-7 東カンビル6F TEL 018-865-1225	S36.4.20 S41.9.14	141
(一社)山形県建築士事務所協会	原 行雄	〒990-0023 山形市松波4-1-15 山形県自治会館3F TEL 023-615-4739	S51.7.3 S53.4.1	203
(一社)福島県建築士事務所協会	安藤 正道	〒960-8061 福島市五月町4-25 福島県建設センター5F TEL 024-521-4033	S30.12.16 S55.4.1	238
(一社)茨城県建築士事務所協会	舟幡 健	〒310-0852 水戸市笠原町978-30 建築会館2F TEL 029-305-7771	S59.5.21 S63.2.1	434
(一社)栃木県建築士事務所協会	佐々木宏幸	〒320-0032 宇都宮市昭和2-5-26 TEL 028-621-3954	S30.10.10 S39.4.1	158
(一社)群馬県建築士事務所協会	石井 繁紀	〒371-0846 前橋市元総社町2-23-7 TEL 027-255-1333	S30.4.1 S44.4.1	186
(一社)埼玉県建築士事務所協会	佐藤 啓智	〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋4-1-7 埼玉建産連会館5F TEL 048-864-9313	S51.5.15 S53.2.21	450
(公社)千葉県建築士事務所協会	須田 正美	〒260-0012 千葉市中央区本町2-1-16 千葉本町第一生命ビル2F TEL 043-224-1640	S46.12.24 S46.12.24	343
(一社)東京都建築士事務所協会	児玉 耕二	〒160-0022 新宿区新宿5-17-17 渡菱ビル3F TEL 03-3203-2601	T11.11.3 S37.9.14	1,615
(一社)神奈川県建築士事務所協会	白井 勇	〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 加瀬ビル201 2F TEL 045-228-0755	S47.12.5 S53.6.1	746
(一社)新潟県建築士事務所協会	本間 裕之	〒951-8131 新潟市中央区白山浦1-614 白山ビル6F TEL 025-265-4748	S34.6.6 S37.11.21	309
(一社)長野県建築士事務所協会	土屋 長命	〒380-0936 長野市岡田町124-1 長水建設会館2F TEL 026-225-9277	S50.8.1 S52.7.21	386
(一社)山梨県建築士事務所協会	初鹿 和久	〒400-0031 甲府市丸の内1-14-19 山梨県建設業協同組合会館2F TEL 055-225-1251	S56.2.19 S57.6.1	105
(一社)富山県建築士事務所協会	稲葉 伸一	〒930-0094 富山市安住町7-1 富山県建築設計会館2F TEL 076-442-1135	S37.11.23 S57.6.1	297
(一社)石川県建築士事務所協会	小林 正澄	〒921-8036 金沢市弥生2-1-23 石川県建設総合センター5F TEL 076-244-5152	S52.8.3 S54.10.1	310
(一社)福井県建築士事務所協会	木下 賀之	〒910-0859 福井市日之出5-4-7 福井県建築会館3F TEL 0776-54-1552	S51.11.27 S54.11.1	207
(一社)岐阜県建築士事務所協会	荒井 誠二	〒500-8358 岐阜市六条南2-13-2 TEL 058-277-9211	S51.11.19 S61.6.1 (再R4.6.7)	118
(一社)静岡県建築士事務所協会	金丸 智昭	〒420-0853 静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル7F TEL 054-255-8931	S43.12.10 S63.4.1	386
(公社)愛知県建築士事務所協会	安藤 春久	〒460-0003 名古屋市中区錦1-18-24 いちご伏見ビル5F TEL 052-201-0500	S48.6.9 S54.10.1	511
(一社)三重県建築士事務所協会	相原 清安	〒514-0037 津市東古河町8-17 システックビル4F TEL 059-226-4416	S55.7.26 S63.4.1	184

名称	会長名	住所 TEL	創立日 日事連入会日	会員数
(一社)滋賀県建築士事務所協会	大村 修	〒520-0801 大津市におの浜1-1-18 建設会館3F TEL 077-526-4476	S57.12.4 S58.6.1	184
(一社)京都府建築士事務所協会	上野 浩也	〒603-8163 京都市北区小山西大野町1 紫明会館1F TEL 075-334-5277	T10.5.1 S37.9.14	371
(一社)大阪府建築士事務所協会	樋上 雅博	〒540-0011 大阪市中央区農人橋2-1-10 大阪建築会館2F TEL 06-6946-7065	S51.3.19 S52.12.15	797
(一社)兵庫県建築士事務所協会	柏本 保	〒650-0011 神戸市中央区下山手通5-9-18 古河ビル4F TEL 078-351-6779	S42.10.21 S53.10.1	353
(一社)奈良県建築士事務所協会	阪口 龍平	〒630-8115 奈良市大宮町2-5-7 奈良県建築士会館 TEL 0742-34-8850	S54.1.27 S54.10.1	103
(一社)和歌山県建築士事務所協会	尾添 信行	〒640-8045 和歌山市ト半町38 建築士会館3F TEL 073-432-6539	S57.4.3 S60.10.1	115
(一社)鳥取県建築士事務所協会	井手添 誠	〒680-0022 鳥取市西町2-102 西町フロイドビル TEL 0857-23-1728	S42.7.1 S47.10.1	118
(一社)島根県建築士事務所協会	矢野 敏明	〒690-0886 松江市母衣町175-8 建築会館 TEL 0852-23-2582	S43.3.23 S49.10.17	111
(一社)岡山県建築士事務所協会	丸川真太郎	〒700-0824 岡山市北区内山下1-3-19 建築会館3F TEL 086-231-3479	S45.3.20 S55.9.1	370
(一社)広島県建築士事務所協会	豊田 隆雄	〒730-0013 広島市中区八丁堀5-23 オガワビル2F TEL 082-221-0600	S23.8.1 S47.4.1	343
(一社)山口県建築士事務所協会	小倉 凡	〒753-0072 山口市大手町3-8 山口県建築士会館内 TEL 083-925-6701	S42.4.16 S47.7.13	105
(一社)徳島県建築士事務所協会	立花 薫	〒770-0847 徳島市幸町3-55 自治会館2F TEL 088-652-5862	S49.4.2 S49.4.26	111
(一社)香川県建築士事務所協会	鉄川 裕崇	〒760-0018 高松市天神前5-18 ルモンド田中ビル3F TEL 087-812-3201	S45.4.4 S49.7.25	87
(一社)愛媛県建築士事務所協会	林 貞義	〒790-0002 松山市二番町4-1-5 愛媛県建築士会館3F TEL 089-945-5200	S32.3.22 S37.9.14	183
(一社)高知県建築士事務所協会	田中 健一	〒780-0870 高知市本町4-2-15 高知県建設会館3F TEL 088-825-1231	S52.11.26 S59.11.1	139
(一社)福岡県建築士事務所協会	岩本 茂美	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-14-18 福岡建設会館5F TEL 092-473-7673	S52.8.6 S53.4.1	470
(一社)佐賀県建築士事務所協会	内田 要	〒840-0041 佐賀市城内2-2-37 建設会館内 TEL 0952-22-3541	S36.4.1 S37.9.14	180
(一社)長崎県建築士事務所協会	木場 耕志	〒850-0874 長崎市魚の町3-33 長崎県建設総合会館4F TEL 095-826-7010	S42.7.1 S43.1.5	240
(一社)熊本県建築士事務所協会	南 孝雄	〒862-0976 熊本市中央区九品寺4-8-17 熊本県建設会館別館2F TEL 096-371-2433	S38.3.10 S38.4.1	233
(一社)大分県建築士事務所協会	仲摩 和雄	〒870-0016 大分市新川町2-4-48 TEL 097-537-7600	S40.6.21 S50.12.11	156
(一社)宮崎県建築士事務所協会	村社 俊弘	〒880-0805 宮崎市橋通東2-9-19 宮崎県建設会館4F TEL 0985-29-1188	S37.3.31 S37.9.14	113
(一社)鹿児島県建築士事務所協会	八反田淳一	〒890-0055 鹿児島市上荒田町29-33 鹿児島建築設計会館 TEL 099-251-9887	S23.3.1 S37.9.14	289
(一社)沖縄県建築士事務所協会	武岡 光明	〒901-2101 浦添市西原1-4-26 沖縄建築会館 TEL 098-879-1311	S30.7.17 S47.5.1	181

〈賛助会員〉 福井コンピュータアーキテクト(株) / 協栄産業(株) / グラフィソフトジャパン(株) / 日本印刷(株) / RX Japan(株)
 〈日事連・建築士事務所賠償責任保険〉 (有)日事連サービス

日事連のあゆみ

〈年表〉

創立期	
昭和36年(1961)	1月 東京会が都道府県建築課宛に、建築士事務所団体の設立状況を照会 12月 東京会に建築士事務所団体の全国組織設立準備特別委員会を設置
昭和37年(1962)	正会員15団体 構成員1,350事務所 9月 全国建築士事務所連合会(14団体で創立・東京文化会館9月14日)初代会長に織本道三郎氏就任、建築士事務所の業務確立と建築士法改正の運動方針を決定 11月 初理事会開催—建築士法、建築基準法の調査研究、報酬額の調査研究等の事業方針を決定し、名称を全国建築士事務所協会連合会と変更
昭和38年(1963)	正会員18団体 構成員1,669事務所 6月 理事会、第2回定時総会—〔特別決議①建築士法改正で資格法と業法の分離確立をはかる。②建築士事務所業務団体の法定化と強制加入をはかる〕
沿革	
昭和50年(1975)	正会員30団体 構成員3,210事務所 5月 社団法人全国建築士事務所協会連合会を設立
昭和55年(1980)	正会員37団体 構成員9,041事務所 4月 社団法人日本建築士事務所協会連合会に名称変更
昭和60年(1985)	正会員43団体 構成員11,823事務所 10月 第10回建築士事務所全国大会(愛知大会)の中で第1回建築作品表彰を実施(平成17年より日事連建築賞として独立)
昭和63年(1988)	正会員47団体 構成員14,627事務所 4月 2会の入会により日事連として全国組織を確立
平成5年(1993)	正会員47団体 構成員18,934事務所 11月 臨時総会で、事業年度を平成6年より「4月1日から翌年3月31日まで」に変更
平成10年(1998)	正会員47団体 構成員19,897事務所 8月 建設大臣より建築士法第27条の2の規定による指定法人の指定を受ける
平成19年(2007)	正会員46団体 構成員14,798事務所 6月 岐阜会の退会届の受理を決定
平成20年(2008)	正会員46団体 構成員14,822事務所 5月 新建築士事務所憲章制定 1月 改正建築士法第27条の2の施行により法定団体となる
平成23年(2011)	正会員46団体 構成員15,078事務所 6月 東日本大震災からの復旧・復興活動を円滑に進めるために、岩手会・宮城会・福島会に「建築復興支援センター」を設置
最近の10年	
平成24年(2012)	正会員46団体 構成員14,950事務所 6月 「(仮称)建築士事務所法の提案」報告書をまとめた 7月 「開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会」の開催開始 四会連合協定 建築設計・監理等業務委託契約約款調査研究会(事務局:日事連)発足 9月 東日本大震災関係功労者に対する国土交通大臣感謝状を日事連として受領 10月 平成24年防災功労者内閣総理大臣表彰を日事連として受賞 日事連創立50周年記念・第36回建築士事務所全国大会(東京開催)実施

平成25年(2013)	正会員46団体 構成員14,897事務所 4月 公益法人制度改革に伴い、一般社団法人に移行 8月 第37回建築士事務所全国大会(三重大会)開催 11月 「(仮称)建築士事務所法」の実現に向け、日事連、士会連及びJIAの設計三会で「建築物の設計・工事監理の業の適正化及び建築主等への情報開示の充実に関する共同提案」(以下、三会共同提案という)をまとめ、自由民主党建築設計議員連盟等各方面に共同で要望、周知等を開始 建築士事務所のマネジメント支援ツール「JAAF-MST」提供開始
平成26年(2014)	正会員46団体 構成員14,857事務所 6月 三会共同提言を基に、議員立法として建築士法の改正案がまとめられ(4月)、建築士法改正法案が可決・成立、公布 講習会の企画、業務報酬基準に準拠した契約の徹底に関する中央省庁及び民間団体に対する共同要望・周知等を開始 9代会長・大内達史氏就任 10月 第38回建築士事務所全国大会(東京開催)実施 「会員増強単体会表彰制度」を設置・表彰
平成27年(2015)	正会員46団体 構成員14,798事務所 10月 第39回建築士事務所全国大会(茨城大会)開催 3月 Web会議実施体制構築
平成28年(2016)	正会員46団体 構成員14,801事務所 6月 熊本地震からの復旧・復興活動を円滑に進めるため、熊本会と「建築復興支援センター」を設置 10月 第40回建築士事務所全国大会(東京開催)実施 大会式典に先立ち、次世代を担う若者を対象とした青年話創会を初めて開催
平成29年(2017)	正会員46団体 構成員14,747事務所 6月 国土交通省より「既存住宅状況調査技術者講習」講習実施機関の登録を受ける 10月 第41回建築士事務所全国大会(和歌山大会)開催 11月 10代会長・佐野吉彦氏就任
平成30年(2018)	正会員46団体 構成員14,679事務所 6月 11代会長・佐々木宏幸氏就任 9月 講習会Web受付システムの導入 10月 第42回建築士事務所全国大会(東京開催)実施 12月 三会で建築士資格取得制度の緩和等の建築士法改正案をまとめ、自由民主党建築設計議員連盟に共同で要望。 建築士法改正法案が可決・成立、公布
令和元年(2019)	正会員46団体 構成員14,586事務所 10月 第43回建築士事務所全国大会(福島大会)開催 1月 公布・施行された告示98号(新業務報酬基準告示)の広報・周知、また、次回改定のための課題把握開始 コロナウイルス感染症の影響により様々な対策開始(講習会、行事、事務局運営等)
令和2年(2020)	正会員46団体 構成員14,476事務所 6月 第12代会長・児玉耕二氏就任 12月 オンライン講習の開始(既存住宅状況調査技術者講習)
令和3年(2021)	正会員46団体 構成員14,286事務所 7月 会誌「日事連」Web版の発行開始 9月 単体会組織強化支援事業の開始(5年間予定) 11月 栃木会で創設された「マロニエBIMコンペ」を日事連が福岡会(主管)・栃木会・熊本会と共催で実施 3月 BIMポータルサイト「BIM GATE」を公開
令和4年(2022)	正会員47団体 構成員14,437事務所(令和5年1月末現在) 6月 岐阜会が再入会 9月 コロナ禍で中止・延期されていた3年ぶりとなる全国大会 第44回建築士事務所全国大会(熊本大会)開催 11月 「マロニエBIMコンペ」を日事連が宮城会(主管)・栃木会・福岡会と共催で実施 12月 創立60周年記念式典・シンポジウム開催

〈建築士事務所全国大会〉

<https://www.njr.or.jp/aboutus/convention/>

第36回(平成24年)東京開催・
日事連創立50周年記念
第37回(平成25年)三重大会
第38回(平成26年)東京開催

第39回(平成27年)茨城大会
第40回(平成28年)東京開催
第41回(平成29年)和歌山大会
第42回(平成30年)東京開催

第43回(令和元年)福島大会
第44回(令和4年)熊本大会



〈日事連建築賞〉

<https://www.njr.or.jp/prize/>

日事連建築賞は、優れた建築作品を設計した建築士事務所を表彰することにより、建築士事務所の資質の向上に資することを目的に毎年実施しており、令和4年度で38回目を迎えました。これからも皆さまのご応募をお待ちしております。



60周年記念賞

令和4年は日事連が創立60周年を迎えることから日事連建築賞に「60周年記念賞」が設置され、「新富士のホスピス 川村病院 |いまここ|」と「みんなの診療所」が受賞した。

偶々であるが、2つの作品の事務所・設計者は以前に日事連会長賞を受賞していた。しかし今回の受賞作品は建物のスケール、設計者の技倆、その社会的意義等いずれの点から見ても、以前のものから格段の飛躍をみせるものであり、この賞が設計者の意欲を後押しして人を成長させているということであり、記念賞にふさわしいとして選定された。

これからの〈日事連建築賞〉もまた、時を継いで優れた設計者を育てていってほしいと思っている。

令和4年度日事連建築賞選考委員会 委員長 富永 譲

〈一般建築部門〉

作品名 新富士のホスピス 川村病院 |いまここ|
事務所名 一級建築士事務所(株)山崎健太郎デザインワークショップ 〈東京会〉

建設地：静岡県富士市 用途：病院
構造：RC造、一部S造
階数：地上3階(ホスピス棟：地上2階、塔屋1階、
医療棟：地上3階)
面積：敷地面積 5,205.81㎡/建築面積 1,257.11㎡
延面積 1,987.68㎡



〈小規模建築部門〉

作品名 みんなの診療所
事務所名 (株)松山建築設計室 〈福岡会〉



建設地：鹿児島県大島郡龍郷町
用途：診療所(患者の収容施設のないものに限る)
構造：S造 階数：地上1階
面積：敷地面積 2,022.44㎡/建築面積 402.42㎡/延面積 316.00㎡

きりとり

日本建築士事務所
協会連合会
創立60周年

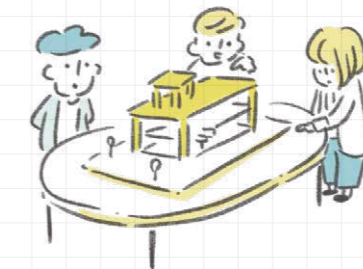
付録
サイコロ

のりしろ

日事連 創立60周年記念

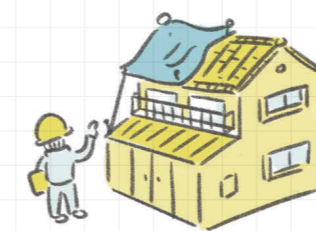


一般社団法人
日本建築士事務所協会連合会
Japan Association of Architectural Firms



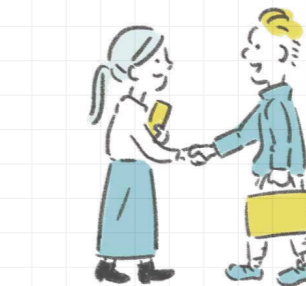
未来を創る実業家

のりしろ



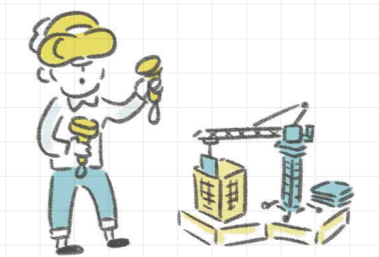
連携した災害対応

のりしろ



信頼できるネットワーク

のりしろ



BIMの可能性

のりしろ



国への提言

きりとり

きりとり



シンボルマークについて

平成3年に日事連創立30周年事業として事務所協会会員より広くシンボルマークを募集し、厳正な審査の結果、最優秀賞受賞作品をシンボルマークに制定しました。

作成者：岡 広 氏 鹿島建設(株)一級建築士事務所・東京会

<作成意図>

●建築の基本構成要素～塊、面、線～で構成

私たち建築士の職域は近年多様になってきており、設計という枠だけではなくくれています。そこでシンボルマークとしては、特定の職種をイメージさせるのではなく、“建築”そのものを表現したいと思いました。

建築のスタイルは歴史とともに様々ですが、その基本構成は、“塊”、“面”、“線”の3つの普遍的要素に集約できると考え、これらをもとにシンボルマークを構成しました。

●日本建築と日本美を表現

日事連のシンボルマークとしては、日本建築の特性を世界に向かって表現することが必要です。そこで“屋根の建築”といわれる日本建築のイメージを取り込みました。

また、柔らかな曲線によって、繊細な日本美を表現しています。

60周年事業特別委員会

委員長	児玉 耕二	日事連会長、東京会会長、(株)久米設計
委員	高橋 清秋	日事連監事、宮城会会長、(株)高橋建築設計事務所
	坂本 忠志	新潟会前会長、坂本建築設計事務所
	井上 泉	日事連理事、静岡会前会長、(株)井上建築事務所一級建築士事務所
	戸田 和孝	大阪会名誉会長・前会長、(株)ヤマビル戸田企画設計一級建築士事務所
	霜村 将博	鳥取会理事・前会長、(株)白兔設計事務所
	丸川眞太郎	岡山会会長、(株)丸川建築設計事務所
	南 孝雄	熊本会会長、(株)産紘設計

記念式典企画分科会

主査	白井 勇	日事連副会長、神奈川会会長、(株)ボロスデザインシステム一級建築士事務所
委員	高橋 清秋	日事連監事、宮城会会長、(株)高橋建築設計事務所
	本澤 崇	日事連理事、栃木会副会長、(株)本澤建築設計事務所
	川手 謙介	東京会会員、(株)三悦設計
	宮原 浩輔	東京会常任理事、(株)山田守建築事務所
	坂本 忠志	新潟会前会長、坂本建築設計事務所
	戸田 和孝	大阪会名誉会長・前会長、(株)ヤマビル戸田企画設計一級建築士事務所

記念誌刊行分科会

主査	井上 泉	日事連理事、静岡会前会長、(株)井上建築事務所一級建築士事務所
委員	東山 圭	宮城会理事、(株)東山設計
	鈴鹿 美穂	東京会会員、川島鈴鹿建築計画
	富樫 亮	日事連理事、東京会副会長、(株)日建設一級建築士事務所
	小泉 厚	神奈川会理事、(株)アスデック建築事務所
	丸川眞太郎	岡山会会長、(株)丸川建築設計事務所
	松澤 徹	福岡会副会長、(株)松澤建築設計事務所

日本建築士事務所協会連合会 創立60周年記念誌

60周年に“あるべき姿”を求めて

— 次世代を生き抜く建築士事務所の課題と日事連の役割 —

2023年3月発行

編集・発行 一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会
〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-21-6 八丁堀NFビル6階
電話 03(3552)1281(代)
<https://www.njr.or.jp>

編集等 進士 遙(構成・イラスト)、三田村 蒔子(文章)、三浦 英絵(撮影)
加藤 智子(株)イマリコーポレーション(DTP制作)

印刷所 望月印刷株式会社

※無断転載禁ず

